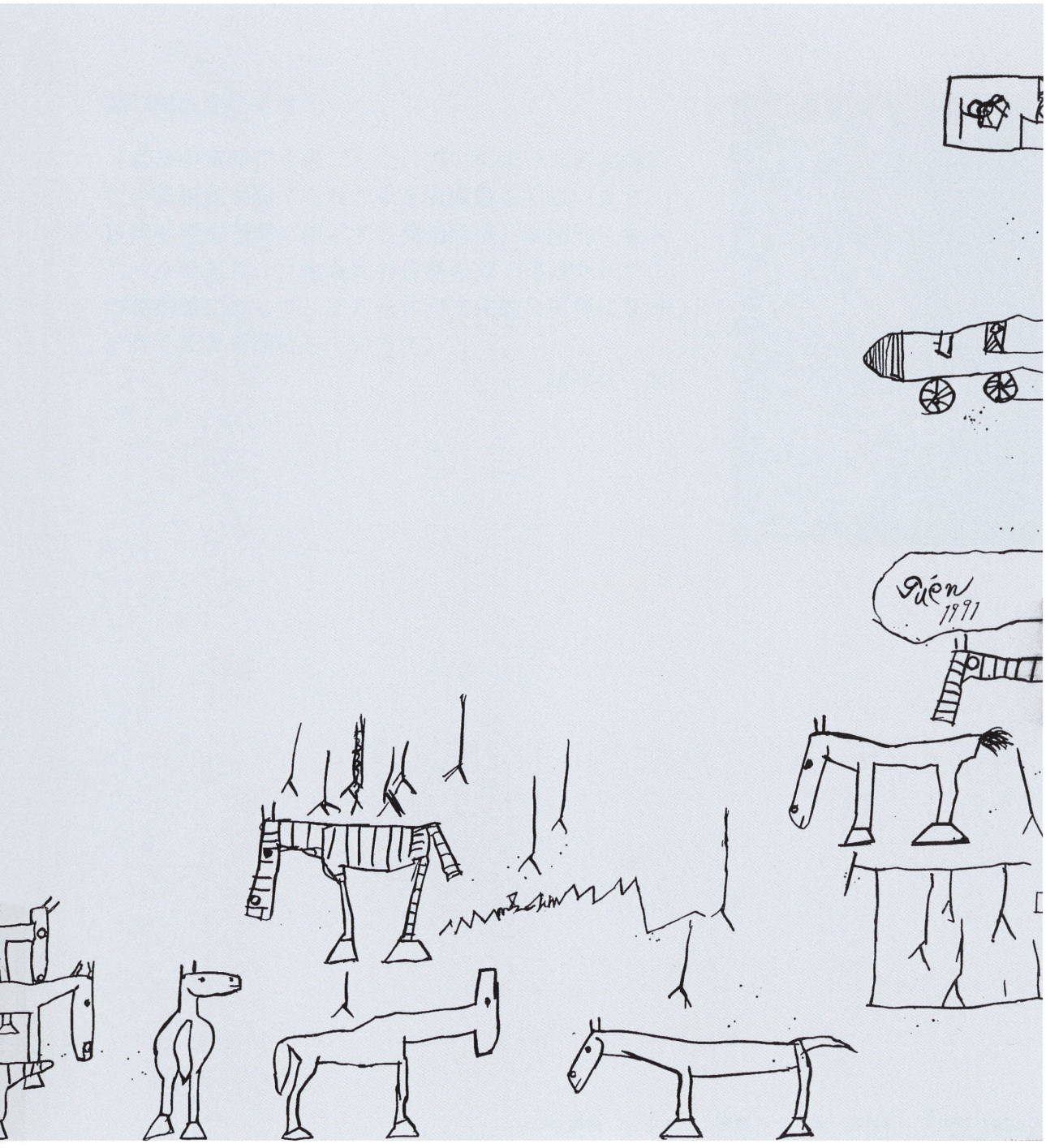
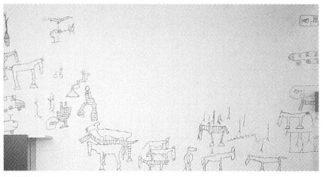
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
年報2009-2010



Marugame Inokuma Genichiro Museum Of Contemporary Art

MIMOCA

表紙　壁画『創造の広場』1991年　猪熊弦一郎　　撮影　フォトス　高橋 章



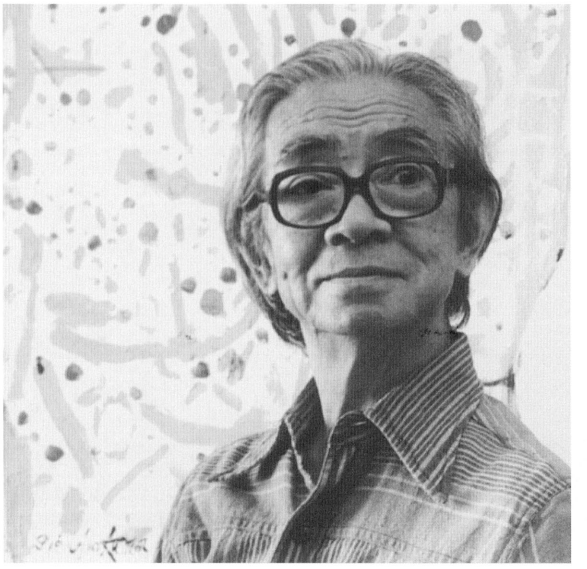
縦　　1150cm
横　　2157cm
材質　大理石（ギリシア産）
　　御影石（岐阜・美濃産）

『壁画の主題になっている馬は、人間をはじめとする生き物の代表として描いたものです。壁画のあるゲートプラザには、壁画のほかに彫刻類もあり、この広場に立ったとき、空間の広さと美しさを感じ、それぞれの人に新たな創造の意欲がわき出るような広場にしたかったのです』　猪熊弦一郎

美術館設立に寄せて

『私が少年時代を過ごした、想い出深い丸亀の地にこの美術館が建てられた事を大変嬉しく思います。現代美術を専門に展示する美術館は、全国的にもユニークであり、丸亀市民の皆様の力で建設されたこの美術館によって、まち全体が文化的な環境になって行くことを期待しています』

猪熊弦一郎



©Francis Haar

凡例

カタログを刊行していない展覧会については、作品リストを掲載した。作品リストを掲載していない展覧会については、「刊行物一覧」（52頁～）にあるカタログを参照のこと。猪熊弦一郎の作品所蔵者は、特に記していない場合は当館である。

目次

Ⅰ　沿革……1
Ⅱ　展覧会事業
　ⅰ　展覧会一覧(2009－2010)……2
　ⅱ　特別展
　　2009年度
　　103　色彩の詩人―脇田和 ……4
　　104　ダブルファンタジー:韓国現代美術展……6
　　105　昭和　写真の1945－1989 ……8
　　106　猪熊弦一郎展　色いろいろ ……15
　　107　Focus 3　高嶺格:スーパーキャパシターズ……16
　　2010年度
　　108　ミカタノミカタ―絵を楽しむ11のヒント ……18
　　109　SickeTel ―キュピキュピと石橋義正 ……20
　　110　杉本博司　アートの起源｜科学 ……23
　　111　杉本博司　アートの起源｜建築 ……25
　ⅲ　常設展「猪熊弦一郎展」
　　2009年度
　　鳥……28
　　新たな展開と街……30
　　回顧展……31
　　モノクローム……32
　　2010年度
　　顔とハワイ時代……33
　　回顧展、Water Blue ……34
　　ニューヨーク時代　1955－63年の作品から……35
　　身体の表現……36
Ⅲ　教育普及事業
　ⅰ　ワークショップ……37
　ⅱ　オープンスタジオ……42
　ⅲ　スクールプログラム
　　1　鑑賞教育について考える会……43
　　2　学校団体での来館……44
　　3　市内教職員対象解説会……46
　　4　博物館実習……46
　　5　職場体験……46
　　6　ミモカキッズパスポート……47
　ⅳ　イベント……48
　ⅴ　刊行物一覧……52
　ⅵ　美術図書室利用状況……56
　ⅶ　ミモカフレンド……57
Ⅳ　美術作品整理、管理 ……58
Ⅴ　その他事業
　ⅰ　ミュージアムショップ……61
　ⅱ　カフェ……62
Ⅵ　入館者状況……63
Ⅶ　組織図……65
Ⅷ　施設概要……67
Ⅸ　利用案内……68

I 沿革

1987年（昭和62年）10月　丸亀市が市制90周年事業として猪熊弦一郎美術館の建設を発表
1988年（昭和63年）1月　美術館建設懇談会設置
7月　美術館建設懇談会、市長に意見書提出
8月　美術館建設基本構想策定
9月　美術館基本設計委託
9月　丸亀駅前地下駐車場建設工事着工
11月　美術館準備室設置
1989年（平成元年）2月　美術館基本設計完了
3月　美術館実施設計委託
5月　美術館基本設計変更案決定
9月　美術館実施設計完了
11月　美術館建設工事着工
12月　美術館建設工事起工式
12月　猪熊弦一郎から丸亀市へ≪夜≫≪猫に寄せる歌≫
≪Two Shores A≫等、第一回分として作品1000点を寄贈
1990年（平成2年）3月　丸亀駅前地下駐車場建設工事竣工
1991年（平成3年）3月　ＪＲ丸亀駅南口広場の整備工事完成
3月　定礎式と壁画「創造の広場」除幕式
3月　猪熊弦一郎に名誉市民証授与される（丸亀市第1号）
6月　美術館建設工事竣工
9月　丸亀市美術館条例制定
10月　美術館の愛称が「MIMOCA」に決定
11月　落成式
11月　一般公開（23日）
1992年（平成4年）3月　入館者５万人達成（28日）
5月　猪熊弦一郎から丸亀市長とのかねてからの約束に
基づき所有する作品等を市に寄贈する主旨の文書提出
10月　入館者10万人達成（９日）
12月　第26回サイン・デザイン賞受賞
1993年（平成5年）4月　財団法人ミモカ美術振興財団設立
5月　猪熊弦一郎、東京にて死去（17日、満90歳）
9月　第34回建築業協会賞受賞
1994年（平成6年）5月　第7回村野藤吾賞受賞
8月　入館者30万人達成（４日）
1995年（平成7年）4月　ミモカフレンド発足
1996年（平成8年）4月　第5回公共建築賞（主催：社団法人・公共建築協会）、特別賞受賞（3日）
5月　休館日改定（月曜日休館を廃止し、元旦より開館へ）
料金体系改定（大学生料金を一般料金と分離し、高校生以下無料に）
開館時間変更（午前10時から午後６時まで）
5月　入館者50万人突破（15日）
9月　ホームページ開設（５日）
1997年（平成9年）7月　美術館南北の市道の愛称を「美術館通り」、「いのくま通り」と設定
1998年（平成10年）11月　建設省設立50周年記念「公共建築百選」に選出
2000年（平成12年）9月　入館者100万人突破（26日）
2001年（平成13年）11月　香川県教育文化功労者受賞（１日）
2001年（平成13年）11月　開館10周年を迎える（23日）
2003年（平成15年）11月　生誕100周年記念猪熊弦一郎回顧展開催（23日）
2006年（平成18年）4月　財団法人ミモカ美術振興財団が、本館の指定管理者となる
2011年（平成23年）2月　公益財団法人ミモカ美術振興財団が発足（１日）

Ⅱ 展覧会事業

i 展覧会一覧 (2009-2010)

特別展

	No	展覧会名	会期
	102	MIMOCA'S EYE vol.2　小金沢健人展　動物的	2009年1月18日～2009年4月5日
		(年報2005－2008参照)	
2009年度	103	色彩の詩人―脇田和	2009年4月11日～2009年6月28日
	104	ダブルファンタジー：韓国現代美術展	2009年7月12日～2009年10月12日
	105	昭和　写真の1945-1989	2009年10月25日～2010年1月11日
	106	猪熊弦一郎展　色いろいろ	2010年1月24日～2010年3月31日
	107	Focus3　高嶺格：スーパーキャパシターズ	2010年1月24日～2010年3月31日
2010年度	108	ミカタノミカタ―絵を楽しむ11のヒント	2010年4月10日～2010年7月4日
	109	SickeTel―キュピキュピと石橋義正	2010年7月18日～2010年11月3日
	110	杉本博司　アートの起源｜科学	2010年11月21日～2011年2月20日
	111	杉本博司　アートの起源｜建築	2011年3月6日～2011年5月15日

常設展「猪熊弦一郎展」

	テーマ	会期
	顔（年報2005—2008参照）	2009年1月18日～2009年4月5日
2009年度	鳥	2009年4月11日～2009年7月5日
	新たな展開と街	2009年7月12日～2009年10月18日
	回顧展	2009年10月25日～2010年1月11日
	モノクローム	2010年1月24日～2010年3月31日
2010年度	顔とハワイ時代	2010年4月10日～2010年7月11日
	回顧展、Water Blue	2010年7月18日～2010年11月7日
	ニューヨーク時代　1955—63年の作品から	2010年11月21日～2011年2月20日
	身体の表現	2011年3月6日～2011年5月15日

Ⅱ 展覧会事業

ii 特別展

103 色彩の詩人—脇田和

会　　期　2009年４月11日(土)～６月28日(日)

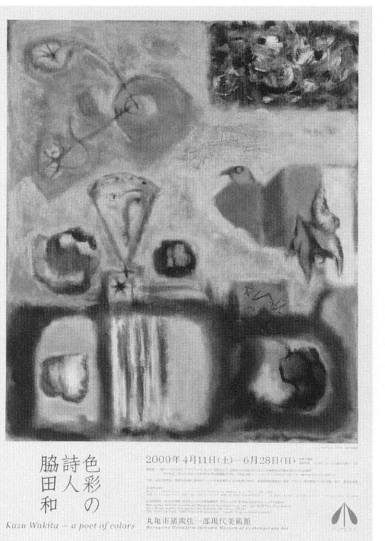
会　　場　１階エントランス、３階展示室Ｃ

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会

協　　賛　ライオン、清水建設、大日本印刷

協　　力　脇田美術館

巡 回 先　呉市立美術館、川越市立美術館



脇田和（1908－2005）の若き留学期から最晩年の作品まで、版画、デッサン、スケッチブックを含む67点を展示し、80年にも及ぶ画業において絵画に対する飽くなき探究を続けた脇田芸術の奥深い魅力を知る展覧会とした。
脇田の原点を示すものとして、現存する数少ない初期の作品を出品、そのものの完成度の高さを示しつつ、晩年の色彩、形態における自由な発展を支える基礎の存在を示唆した。また中期の作品では絵画制作のうえで取り組んださまざまな試みを示し、晩年の作品では、最大限に発揮された脇田絵画の魅力を存分に紹介した。

子どもや鳥、花といった身近な世界を描いていること、隅々まで意識が行きわたり、見るほどに新しい発見があること、また絵画を制作する追求する厳しい姿勢を持ちながら、どの作品にも通低する温かさがあることなどから、口々に感想を述べながら時間をかけて鑑賞する来館者の姿が多く見受けられる展覧会となった。

制作物　子ども向けリーフレット
「モーゼルワインの夕べ」リーフレット

入場者数　**8,150**人

関連企画

オープニング・セレモニー

4月11日(土)　10時～
会　　場　1階エントランスホール
列 席 者　脇田智(脇田美術館館長)、杉尾眞澄(丸亀市議会副議長)、中野扶佐男(読売新聞大阪本社高松総局長)、東山正章(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館館長)
参加者数　27名

記念講演会

4月11日(土)　14時～
会　　場　2階ミュージアムホール
講　　師　脇田智(脇田美術館館長)
参加者数　43名

モーゼルワインの夕べ

6月5日(金)　19時～22時
会　　場　3階展示室C、カフェレストMIMOCA
講　　師　アドルフ・シュミット氏(モーゼルワイン生産者協会会長)、ソニア・クリスト氏(モーゼルワインの女王)
通　　訳　栗田美佐
料　　金　一般3,000円(展覧会観覧料及びワイン・軽食代含む)、ミモカフレンド会員2,500円
概　　要　担当キュレーターの案内で展覧会を観覧したあと、脇田和が基礎を学んだドイツのワインをモーゼルワイン生産者協会会長アドルフ・シュミット氏の説明付きで試飲
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
共　　催　モーゼルワイン生産者協会
協　　力　ホンダインターナショナル
参加者数　34名

ファミリー・デイ

日　　時　会期中の日曜日
概　　要　高校生以下1名につき、一般1名が観覧無料
参加者数　136名

キュレーターズ・トーク

4月12日(日)、19日(日)、26日(日)、5月3日(日・祝)、10日(日)、17日(日)、24日(日)、31日(日)、6月7日(日)、14日(日)、21日(日)、28日(日)
14時～
概　　要　第1、2、4、5日曜日は大人向け、第3日曜日は子ども向け
参 加 料　無料
参加者数　142名(12日間合計)

104 ダブル・ファンタジー：韓国現代美術展

会　　期　2009年7月12日（日）～10月12日（月・祝）

会　　場　1階エントランス、3階展示室C

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

後　　援　駐大阪韓国文化院、香川県、社団法人香川県観光協会

助　　成　財団法人地域創造

協　　力　アシアナ航空

企　　画　ナンジョウアンドアソシエイツ

韓国の現代美術は、独自の文化、伝統にもとづいた美意識や、歴史を背景に、さらに近年は情報化社会や、美術を取り巻く環境の推移なども反映しながら、目覚ましく変化を遂げ、多様な展開を見せている。このような韓国現代美術の現在を、様々なメディアを用いた作品により若手作家を中心に紹介する展覧会として開催した。タイトルの＜ダブル・ファンタジー＞とは、現代社会のひとつの断面を表し、伝統と革新、人工と自然、現実と虚構、ローカルとグローバルなど、相反するものが対立ではなく、共存、もしくは混在している状況を示している。本展では、そうした時代の様相を掴みとり、視覚化している作品にフォーカスし、これまでのステレオタイプなイメージを超えた、新しい韓国現代美術の息吹を伝えることを目的とした。関連プログラムとして、地元ボランティア主導で地元特産品を使った「オープニングイベント：うどんパーティ」や、15名の出品作家のうち10名が出演した「アーティスト・トーク」をはじめとする種類の催しを行い、展覧会内容により親しみ理解を深め、さらに多方面から広く韓国文化に接する機会を設けた。

制作物　子ども向けリーフレット

入場者数 **11,891** 人

関連企画

オープニングイベント「うどんパーティ」ボランティアによる企画運営ミーティング

7月5日(日)　15時～18時
会　　場　2階造形スタジオ
概　　要　「展覧会のために韓国から駆けつけてくれた出品作家や遠方からのお客様を<うどん>でおもてなししませんか。」との呼びかけに集まった参加者で展覧会初日のイベント内容を話し合った。
参加者数　16名

オープニングイベント「うどんパーティ」

7月12日(日)　11時～13時30分
会　　場　1階ゲートプラザ
概　　要　ボランティアによる企画運営ミーティングで決まった内容に基づき、うどんの屋台がゲートプラザにオープンした。出品作家や遠方からの来館者に地元来館者も交わって、ボランティアスタッフのサーブするうどんに舌鼓を打った。
参 加 料　無料
参加者数　272名(ボランティア参加者12名を含む)
うどん提供　つづみ

アーティスト・トーク

7月12日(日)　14時～17時
会　　場　2階ミュージアムホール
出　　演　イ・スギョン、ジ・ヨンホ、キム・ヘナ、イ・ジヒョン、ケイ・ディー・ケイ(キム・ドギュン)、バック・スンウ、ヂョン・ヨンドゥ、ク・ドンヒ、アン・ジョンジュ、シン・ギウン
モデレーター　北澤ひろみ(ナンジョウアンドアソシエイツ)
概　　要　出品作家15名のうち10名が出演し、それぞれの活動や作品について、写真や映像を用いたプレゼンテーションを行った。
参 加 料　無料
参加者数　86名

記念対談「アートの生まれるところ」

9月5日(土)　14時～16時
会　　場　2階ミュージアムホール
講　　師　キム・ホンヒ(京畿道美術館館長)、小池一子(クリエイティブ・ディレクター)
モデレーター　北澤ひろみ
概　　要　韓国よりキム・ホンヒ氏と東京より小池一子氏を講師に招き、記念対談を行った。韓国と日本においてそれぞれオルタナティブ・スペースを先駆け若い作家を育成し、両国の現代美術を先導してきた二人に、これまでの活動やオルタナティブ・スペースが果たしてきた役割、現在そして将来の現代美術の展望などをお話いただいた。
参 加 料　無料
参加者数　36名

展覧会をみてソウルにいこう!高松ーソウル往復航空券プレゼント

概　　要　地元空港発着で唯一の海外便であるソウル便航空券を入館者へのプレゼントとし、美術ファン以外の地域住民の観覧をうながす工夫をした。
応募期間　7月12日(日)～9月5日(土)
応募者数　1427名
当選賞品　アシアナ航空　高松ーソウルエコノミークラス往復航空券(ペア1組)
協　　力　アシアナ航空(航空券提供)

キュレーターズ・トーク

7月19日(日)、26日(日)、8月2日(日)、9日(日)、16日(日)、23日(日)、30日(日)、9月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日)、10月4日(日)、11日(日)
各日14時～15時
参 加 料　無料
参加者数　192名(13日間合計)

105 昭和　写真の1945−1989　−カメラがとらえた戦後の日本−

会　　期　2009年10月25日(日)〜2010年1月11日(月・祝)［年末休館：12月25日〜31日］

会　　場　3階展示室C

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

特別協力　東京都写真美術館

協　　力　フォト・ギャラリー・インターナショナル

第２次世界大戦後の占領下の混乱期から高度成長期を経てバブル期へと至る激動の時代「昭和」に焦点を当て、土門拳や木村伊兵衛から東松照明や細江英公ら「昭和」を生きた写真家たちの写真作品193点を展示した。

作品展示にあたっては、戦後日本における「昭和」、つまり1945年から1989年に至る時代を、年代に沿って「占領下の日本」「高度成長期」「ヒーロー・ヒロインの時代」「オイルショックからバブルへ」という４部に分けて構成し、観覧者が最初に目にする作品として《敗戦の日の太陽、高田》（濱谷浩）を、最後に《昭和最後の太陽》（川田喜久治）を展示することで、戦後が始まる日の太陽で始まり、「昭和」が終わる日の太陽で展覧会が終わるという設定であった。こういった展示によって、観覧者それぞれが、めまぐるしく変化する社会情勢や価値観の中で、写真家たちがレンズを通して見たものや、印画紙に焼き付けようとしたものに思いを馳せていただくきっかけとなったであろう。

なお本展は東京都写真美術館の全面的な協力を得て実施した。

制作物　展示ガイド　子ども向けリーフレット

入場者数　**10,307**人

関連企画

キュレーターズ・トーク

11月１日(日)、８日(日)、15日(日)、22日(日)、29日(日)、12月13日(日)、20日(日)、2010年１月３日(日)
各日14時～14時40分
参 加 料　無料
参加者数　103名(８日間合計)

レクチャー：昭和と写真

概　　要　昭和と写真をめぐるレクチャーを実施した。

[第１回]
日　　時　10月25日(日)　14時～15時30分
会　　場　３階展示室C
講　　師　藤村里美(東京都写真美術館学芸員)
参 加 料　無料(ただし観覧券が必要)
参加者数　41名

[第２回]
日　　時　12月６日(日)　14時～15時30分
会　　場　２階ミュージアムホール
講　　師　中田耕市(本展担当学芸員)
参 加 料　無料
参加者数　44名

ファミリー・デイ

11月１日(日)、３日(火･祝)、８日(日)、15日(日)、22日(日)、29日(日)
概　　要　「11月の日曜祝日は、家族でミモカに行こう！」をキャッチフレーズに、高校生以下１名の観覧者に対して、同伴の方１名も無料とする来館促進プログラムを実施した。
参加者数　164名(６日間合計)

地域連携プログラム

概　　要　地域の芸術文化振興の一環として、本展に連動して丸亀市内および近隣を会場として催される「写真」または「昭和の生活文化」についての各種催事を募集し、「展覧会地域連携プログラム」として広報協力などを通して美術館と地域との連携を図った。
応募資格　丸亀市内および近隣で活動する団体･個人が広く一般を対象として催す「写真」および「昭和の生活文化」にかかわる展覧会･講演会等の催しで、2009年10月25日から2010年１月11日までの時期に開催されるもの。
参加団体　６団体

作品リスト

No.	作家	作品名	制作年
第1部　昭和20年代　—占領下の日本—			
廃墟—焦土からの出発			
1	濱谷浩	敗戦の日の太陽、高田	昭和20(1945)年
2	山端庸介	防空壕に避難して助かった女性（中町天主堂付近、南南東2.6km）1945年8月10日朝	昭和20(1945)年
3	山端庸介	焼死体のわきに、茫然と立ちつくす若い女性（浜口町付近、南500m）1945年8月10日午後1時すぎ	昭和20(1945)年
4	中村立行	焼跡の美学Ⅰ　麹町英国大使館跡	昭和21(1946)年
5	林重男	相生橋東詰め北側の広島商工会議所屋上から広島市内を見わたす（360°のパノラマ）	昭和20(1945)年
6	師岡宏次	東京大空襲後の銀座4丁目交差点	昭和20(1945)年
7	林忠彦	復員	昭和21(1946)年
8	林忠彦	女の子や娘の靴みがきもふえた（有楽町）	昭和22(1947)年
9	林忠彦	浮浪児（上野）	昭和21(1946)年
10	菊地俊吉	浮浪者収容所施設の栄養失調児	昭和20(1945)年
11	大束元	建設への破壊	昭和22(1947)年
オキュパイド・ジャパン—闇市・P.X.・女性			
12	中村立行	戸越公園駅	昭和21(1946)年
13	笹本恒子	米軍専用列車　「昭和・あの時・あの人」より	昭和21(1946)年
14	笹本恒子	銀座4丁目P.X.　「昭和・あの時・あの人」より	昭和21(1946)年頃
15	渡部雄吉	デッドエンド、東京・日比谷の米軍施設	昭和25(1950)年
16	樋口忠男	銀座のこども	昭和23(1948)年
17	木村伊兵衛	露天、新宿	昭和20(1945)年
18	木村伊兵衛	東京駅	昭和20(1945)年
19	木村伊兵衛	数寄屋橋公園、踊る宗教	昭和23(1948)年
20	木村伊兵衛	東京裁判	昭和23(1948)年
21	中村立行	白衣の勇士	昭和29(1954)年
22	樋口忠男	銀座　マダム・マサコの店	昭和20-23(1945-48)年
23	林忠彦	坂口安吾	昭和22(1947)年
24	林忠彦	太宰治	昭和21(1946)年
25	大束元	カジノ座の人々、浅草	昭和28(1953)年
26	稲村隆正	永井荷風を囲んで、浅草常磐座	昭和23(1948)年
解放—エロスとリアル			
27	福田勝治	光る女体	昭和23(1948)年
28	杉山吉良	ヌード	昭和20-24(1945-49)年
29-30	真継不二夫	「美の生態Ⅱ」より	昭和26(1951)年
31	大束元	交通整理、銀座4丁目	昭和23(1948)年
32	大辻清司	オブジェ	昭和28(1953)年
33	木村伊兵衛	銀座	昭和22(1947)年
34	東松照明	サーカスのピエロ	昭和27(1952)年
35	福島菊次郎	「敗戦・飢餓の島」より	昭和21(1946)年
36	田村茂	浮浪児	昭和20(1945)年
37	土門拳	橋の上	昭和20年代(1945-55)
38	土門拳	路傍　銀座	昭和29(1954)年

作品リスト

No.	作家	作品名	制作年
復興—「戦後」という風景			
39	薗部澄	新宿聚楽前、新宿区	昭和26(1951)年
40	薗部澄	土橋付近、有楽町～新橋間の車窓より	昭和28(1953)年
41	薗部澄	旧帝国ホテル、有楽町～新橋間の車窓より	昭和28(1953)年
42	大束元	総選挙開票速報を見ようと集まる人々(有楽町)	昭和27(1952)年
43	田村茂	訴える—三越のストライキ	昭和26(1951)年
44－45	三木淳	血のメーデー、警官隊とデモ隊の乱闘	昭和27(1952)年5月1日
46	細江英公	乞食の父子Ⅰ、銀座4丁目付近	昭和29(1954)年
47	大竹省二	シャンソン歌手、ジョセフィン・ベーカー	昭和29(1954)年
48	吉岡専造	運命の子供 「現代の感情」より	昭和27(1952)年
49	吉岡専造	傍聴席 「現代の感情」より	昭和26(1951)年
第2部 昭和30·40年代 part1 —高度成長期—			
高度成長期の風景—時代の光と影			
1	長野重一	5時のサラリーマン 「ドリームエイジ」より	昭和34(1959)年
2	長野重一	自動車ショー2 「ドリームエイジ」より	昭和35(1960)年
3	薗部澄	浅草六区の興行街·台東区 「忘れえぬ戦後の日本」より	昭和35(1960)年
4	薗部澄	分譲地 「忘れえぬ戦後の日本」より	昭和37(1962)年
5	田沼武能	落書き遊びも危険になった 東京、台東	昭和34(1959)年
6	英伸三	集団就職・名古屋駅に着いた少年少女たち 「一所懸命の時代」より	昭和46(1971)年
7	田村茂	砂川闘争	昭和31(1956)年頃
8	田村茂	安保闘争	昭和35(1960)年頃
9	英伸三	農薬散布 「農村からの証言」より	昭和42(1967)年
10	桑原史成	水俣病(5) 元網元の漁師の手 「水俣病」より	昭和45(1970)年
11	桑原史成	水俣病(9) 上村智子を抱く父親 「水俣病」より	昭和52(1977)年
12	北井一夫	少年行動隊 結成の日 「三里塚」より	昭和45(1970)年
13	北井一夫	念仏講の日 「三里塚」より	昭和45(1970)年
14	北井一夫	山形県 大蔵村 「村へ」より	昭和51(1976)年
写真表現の世界Ⅰ—戦後派(アプレ·ゲール)			
15	石元泰博	街、東京 #175	昭和33(1958)年頃
16	石元泰博	街、東京 #176	昭和29-37(1954-62)年頃
17	常磐とよ子	赤線地帯 6 「危険な毒花」より	昭和30-33(1955-58)年頃
18	常磐とよ子	女子プロレス 2 横浜野毛プール 「危険な毒花」より	昭和31(1956)年
19	奈良原一高	人間の土地 緑なき島 #3 「人間の土地」より	昭和29-32(1954-57)年
20	奈良原一高	人間の土地 緑なき島 #26 「人間の土地」より	昭和29-32(1954-57)年
21	奈良原一高	王国、沈黙の園 #1－29 「王国 第1部 沈黙の園」より	昭和33(1958)年
22	細江英公	おとこと女 #3 「おとこと女」より	昭和35(1960)年
23	細江英公	薔薇刑 #32 「薔薇刑」より	昭和36(1961)年
24	東松照明	「チューインガムとチョコレート」より	昭和41(1966)年
25	東松照明	「〈11時02分〉NAGASAKI」より	昭和36(1961)年
26	川田喜久治	原爆ドームと太陽 爆心地 「地図」より	昭和34-40(1959-65)年
27	川田喜久治	ヒロシマ·太田川·ドーム 「地図」より	昭和34-40(1959-65)年

作品リスト

No.	作家	作品名	制作年
写真表現の世界Ⅱ—ブレボケ・コンポラ・私写真			
28	高梨豊	杉並区　環状七号線　「東京人　1964-1965」より	昭和39-40(1964-65)年
29	高梨豊	新宿区　伊勢丹　「東京人　1964-1965」より	昭和40(1965)年
30	森山大道	にっぽん劇場(戸波龍太郎一座)2　「にっぽん劇場」より	昭和41(1966)年
31	森山大道	新宿　「東京」より	昭和43(1968)年
32	森山大道	無題　「プロヴォークⅡ」より	昭和44(1969)年
33-34	柳沢信	「都市の軌跡」より	昭和39-46(1964-71)年
35	柳沢信	高知にて　「片隅の光景」より	昭和47(1972)年
36-39	牛腸茂雄	「日々」より	昭和42-45(1967-70)年
40-41	荒木経惟	「センチメンタルな旅」より	昭和46(1971)年
42	深瀬昌久	洋子、九段　「遊戯」より	昭和39(1964)年
43	深瀬昌久	洋子、九段　「遊戯」より	昭和45(1970)年
44	田村彰英	家	昭和43(1968)年
45	内藤正敏	オシラ祭文をよむイタコ、青森県久渡寺　「婆　バクハツ!」より	昭和44(1969)年
46	内藤正敏	神憑って祈る信者、青森県高山稲荷　「婆　バクハツ!」より	昭和45(1970)年
47	内藤正敏	笑う老婆、青森県久渡寺　「婆　バクハツ!」より	昭和44(1969)年
48-49	小原健	無題　「ONE」より	昭和45(1970)年
第3部　昭和30・40年代　part2　—ヒーロー・ヒロインの時代—			
スター—大衆のヒーロー・ヒロイン			
1	早田雄二	原節子	昭和25(1950)年頃
2	早田雄二	月丘夢路	昭和30(1955)年頃
3	松島進	美空ひばり	昭和29(1954)年
4	松島進	力道山	昭和26(1951)年
5	松島進	三國連太郎	昭和28(1953)年
6	石元泰博	ポートレイト　＃215	昭和43(1968)年
7	稲村隆正	太地喜和子17歳	昭和36(1961)年
8	稲村隆正	ジプシー・ローズ(東劇バーレスク劇場楽屋)	昭和29(1954)年
9	大竹省二	女優　若尾文子　「女優」より	昭和37(1962)年頃
10	齋藤康一	黒澤明	昭和50(1975)年
11	早田雄二	アルフレッド・ヒッチコック	昭和40(1965)年
12	秋山庄太郎	吉永小百合　「昭和の美女」より	昭和45(1970)年頃
13	秋山庄太郎	朝丘ルリ子　「昭和の美女」より	昭和45(1970)年頃
14	秋山庄太郎	藤純子　「昭和の美女」より	昭和44(1969)年
15	秋山庄太郎	桜田淳子　「昭和の美女」より	昭和50(1975)年
タレント—メディアがつくりだしたヒーロー・ヒロイン			
16-17	立木義浩	「舌出し天使」より	昭和40(1965)年
18	佐藤明	笑う　「サイクロピアン」より	昭和37(1962)年
19	藤井秀樹	丘ひろみ　「MAXFACTOR」より	昭和38(1963)年
20	中村正也	「城」より	昭和44(1969)年
21	篠山紀信	誕生	昭和43(1968)年
22	篠山紀信	カルメン・マキ	昭和44(1969)年
23	沢渡朔	「nadia」より	昭和46-47(1971-72)年
24	高梨豊	千代田区　丸の内松竹　ビートルズ映画大全「東京人　1964-65」より	昭和40(1965)年
25	石元泰博	ポートレイト　＃213	昭和43(1968)年

作品リスト

No.	作　家	作　品　名	制作年
26	佐藤明	おんな	昭和45(1970)年
27	細江英公	澁澤龍彦、作家　「知人の芸術家たち」より	昭和40(1965)年
28	細江英公	唐十郎、李礼仙夫妻、作家と女優　「知人の芸術家たち」より	昭和41(1966)年
29	小川隆之	ORSON WELLES	昭和51(1976)年
30	操上和美	野坂昭如　「ポートレイト・シリーズ(1970s)」より	昭和52(1977)年
31	操上和美	沢田研二　「ポートレイト・シリーズ(1970s)」より	昭和53(1978)年
32	操上和美	井上陽水　「ポートレイト・シリーズ(1970s)」より	昭和51(1976)年
アメリカン・ヒーロー・ヒロイン			
33	ジョージ・S・ジンベル	ジャックリーン・ケネディとジョン・ケネディ　ニューヨーク	昭和35(1960)年
34	フィリップ・ハルスマン	マリリン・モンロー	昭和27(1952)年
35	ウィリアム・ユージン・スミス	ジャズとフォークのミュージシャンたち	昭和34-44(1959-69)年
有名人―グラフを飾ったヒーロー・ヒロイン			
36	三木淳	ユージン・スミス、ニューヨークで　「マイ・フレンズ、グレート・フォトグラファーズ」より	昭和29(1954)年
37	石井幸之助	佐藤栄作	昭和44(1969)年
38	石井幸之助	田中角栄	昭和47(1972)年
39	石井幸之助	田中角栄	昭和48(1973)年
40	林忠彦	王貞治(野球・巨人軍)	昭和45(1970)年頃
41	松本徳彦	越路吹雪「ロングリサイタル」日生劇場	昭和46(1971)年11月4日
42	木之下晃	アルフレート・ブレンデル	昭和49(1974)年
43	木之下晃	マリア・カラス	昭和49(1974)年
44	大竹省二	喜劇俳優、榎本健一	昭和35(1960)年頃
45	石元泰博	ポートレイト　＃212	昭和43-44(1968-69)年
46	野上透	大江健三郎、東大生協店　「われらの文学」より	昭和40(1965)年
47	林忠彦	石坂洋次郎　「文士の時代」より	昭和50(1975)年頃
48	林忠彦	安部公房　「文士の時代」より	昭和40(1965)年頃
49	齋藤康一	松下幸之助	昭和50(1975)年
50	齋藤康一	土光敏夫	昭和49(1974)年
第4部　昭和50年代－　―オイルショックからバブルへ―			
内向する風景			
1	森山大道	「光と影」より	昭和57(1982)年
2	森山大道	「光と影」より	昭和55(1980)年
3	森山大道	「光と影」より	昭和56(1981)年
4	森山大道	「光と影」より	昭和56(1981)年
5	山崎博	海をまねる太陽　No.5　「海をまねる太陽」より	昭和53(1978)年
6	山崎博	ヘリオグラフィ　No.1　「ヘリオグラフィ」より	昭和53(1978)年
7－8	島尾伸三	「生活　1980-85」より	昭和55-60(1980-85)年
9	築地仁	写真像　＃5　「写真像」より	昭和56-58(1981-83)年
10	築地仁	写真像　＃29　「写真像」より	昭和56-58(1981-83)年
11	大西みつぐ	東砂　1984.8　「ワンダーランド　1980-1989」より	昭和59(1984)年
12	大西みつぐ	桜橋　1985.5　「ワンダーランド　1980-1989」より	昭和60(1985)年
13	山内道雄	新宿区　歌舞伎町　1984　「東京」より	昭和59(1984)年
14	山内道雄	東京　阿佐ヶ谷　1985年8月	昭和60(1985)年
15	尾仲浩二	冬の公園　「背高あわだち草」より	昭和63(1988)年
16	尾仲浩二	雨の蜘蛛の巣　「背高あわだち草」より	昭和63(1988)年

作品リスト

No.	作　家	作　品　名	制作年
崩れゆく風景			
17	須田一政	岐阜・郡上八幡　「風姿花伝」より	昭和50(1975)年
18	須田一政	富山・八尾　「風姿花伝」より	昭和51(1976)年
19-20	石内都	「APARTMENT」より	昭和52-53(1977-78)年
21	土田ヒロミ	「砂を数える」より	昭和56(1981)年
22-23	渡辺兼人	「既視の街」より	昭和54(1979)年
24	橋口譲二	原田佳明　「十七歳の地図」より	昭和62(1987)年頃
25	橋口譲二	元山浩一　「十七歳の地図」より	昭和62(1987)年
変容する風景			
26-27	雑賀雄二	「軍艦島―棄てられた島の風景」より	昭和60(1985)年
28	宮本隆司	中野刑務所(旧豊多摩監獄)、東京　「建築の黙示録」より	昭和58(1983)年
29	宮本隆司	日比谷映画劇場、東京　「建築の黙示録」より	昭和59(1984)年
30	宮本隆司	筑波科学博覧会パヴィリオン、筑波　「建築の黙示録」より	昭和60(1985)年
31	柴田敏雄	福島県南会津郡田島町　「日本典型」より	平成元(1989)年
32	柴田敏雄	静岡県中伊豆冷川　「日本典型」より	昭和61(1986)年
33	伊奈英次	文京区　後楽園　1982　「IN TOKYO」より	昭和57(1982)年
34	伊奈英次	新宿区　西新宿　1983　「IN TOKYO」より	昭和58(1983)年
35	伊奈英次	在日米空軍三沢基地第6920電子保安軍 青森県三沢市　「ZONE」より	昭和62(1987)年
36	畠山直哉	「ライム・ヒルズ」より	昭和62(1987)年
37	畠山直哉	「ライム・ヒルズ」より	昭和63(1988)年
38	小林のりお	東京都八王子市別所　「ランドスケープ」より	昭和59(1984)年
39	小林のりお	東京都多摩市聖ヶ丘　「ランドスケープ」より	昭和59(1984)年
40-43	荒木経惟	「写真論　1988-89」より	昭和63-平成元(1988-89)年
44	川田喜久治	昭和最後の太陽　「ラスト・コスモロジー」より	昭和64(1989)年

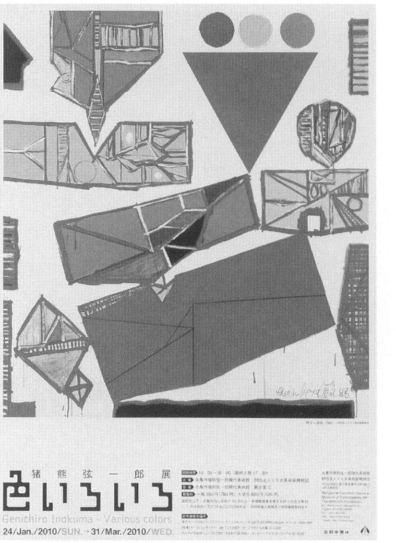
※所蔵は全て東京都写真美術館

106 猪熊弦一郎展　色いろいろ

会　　期　2010年１月24日(日)～３月31日(水)

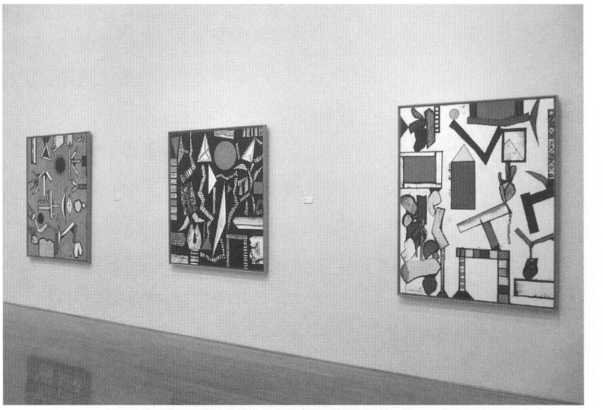
会　　場　３階展示室Ｃ

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団



猪熊作品の色彩に注目し、天性の色彩感覚から生み出された新しい美を紹介する展覧会。とくに晩年の鮮やかな色彩の作品を取り上げ、強い色とその対比を活かした色面構成による作品の魅力を伝えた。同時に猪熊の画業において中期にあたり、色面による画面構成の意識が芽生えたころの1940年代後半の作品を展示した。晩年の抽象作品と中期の具象作品を展示室内において一続きに展示することで、何が描かれているかを見るだけではなく、色の配置という視点を意識しながら作品が鑑賞されることを目的とした。

また本展では香川県立ミュージアムより７点借用、出品したが、いずれも当館では所蔵しない色遣いの作品である。このことによって一括りに「鮮やかで華やか」と言い表すこともできる猪熊作品の色遣いについて、より一層さまざまな色遣い、画面構成の違いを見せることができ、猪熊の幅広さを伝えることが出来た。



刊行物　カタログ

制作物　子ども向けリーフレット(「Focus３　高嶺格:スーパーキャパシタ」と同内容)

関連企画

キュレーターズ・トーク

１月31日(日)、２月14日(日)、28日(日)
３月14日(日)、28日(日)　14時～
参 加 料　無料
参加者数　56名(５日間合計)

入場者数　**6,265**人

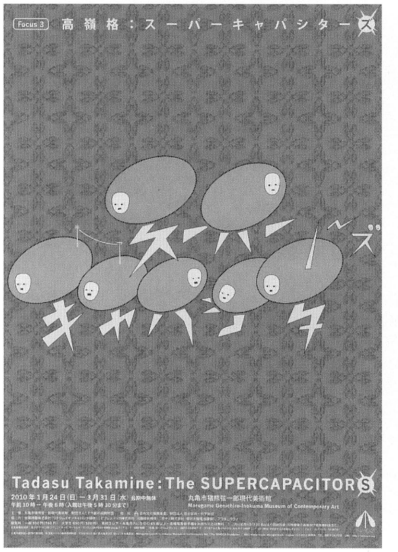
107 Focus 3　高嶺格：スーパーキャパシターズ

会　　期　2010年１月24日(日)～３月31日(水)

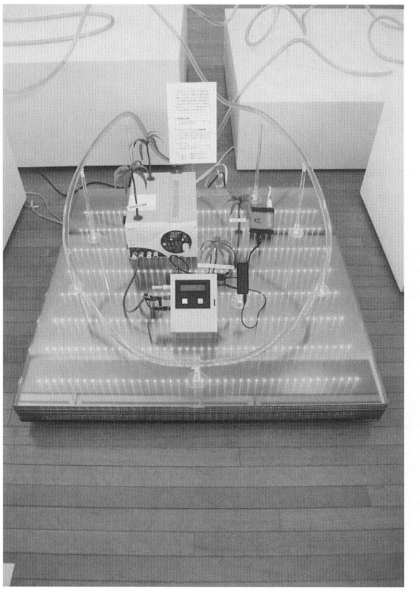
会　　場　１階エントランス、２階展示室Ｂ

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

協　　力　太陽誘電株式会社(リチウムイオンキャパシタ提供)、ビフレステック株式会社(回路技術提供)、京セミ株式会社(球状太陽電池提供)、アラタニウラノ



Focusシリーズの第３回目として、高嶺格の作品「スーパーキャパシタ」を紹介した。高嶺格（1968－）は、社会の抱える様々な矛盾や軋轢を自分自身の問題としてとらえ、真正面から向き合って考えることから作品を生み出し、多岐にわたる媒体によって表現している。今回高嶺が相対したのは「電力」。この大規模な問題に対し、高嶺は偶然知った「スーパーキャパシタ」という小さな蓄電装置に注目、自分にできることとしてこの装置を広めるキャンペーンを繰り広げた。本展は2008年にアラタニウラノ（東京）にて開催された高嶺の個展「スーパーキャパシタ」の第二弾である。前回キャラクターやロゴにより「スーパーキャパシタ」の名前にイメージを与えブランド化が仕掛けられたのに加え、今回は、開発企業との共同作業を実現、実際にキャパシタから電力が供給される様子が、高嶺の手によるデモンストレーションで具体的に示された。新アイテムとしての太陽電池も加わり「スーパーキャパシターズ」としてキャンペーンのさらなる拡張が図られた。



刊行物　カタログ
制作物　子ども向けリーフレット

入場者数　**6,265**人

関連企画

オープン・アトリエ

1月4日(月)～6日(水)　各日14時～17時
会　　場　2階造形スタジオ
概　　要　丸亀で滞在制作中のアーティストのアトリエを開放し、作品の制作現場や過程を見学したり、作家と話をしたりする機会をつくった。
参 加 料　無料
参加者数　26名(3日間合計)

オープニング・トーク

1月24日(日)　14時～15時30分
会　　場　2階ミュージアムホール
出　　演　高嶺格(出品作家)、石田克英(太陽誘電株式会社)
概　　要　作家とキャパシタ提供の協力企業担当技術者によるトークイベントを行った。キャパシタや電力について作家の質問に技術者が答えるなど、美術館での講演ではめったに聞くことが出来ないような興味深い内容となった。
参 加 料　無料
参加者数　116名

キュレーターズ・トーク

2月7日(日)、21日(日)、3月7日(日)、21日(日・祝)
各日14時～15時
参 加 料　無料
参加者数　77名(4日間合計)

108 ミカタノミカタ—絵を楽しむ11のヒント

会　　期　2010年４月10日(土)～７月４日(日)

会　　場　３階展示室Ｃ

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

本展は、鑑賞をすすめる教育普及型の展覧会である。

絵を見る方法は無数にあって自由なものであるがゆえに、どこをどう見たら良いか分からないという声も聞かれる。しかしこれを理由に、主に作品を鑑賞する場である美術館から遠ざかってしまっては勿体ない。そこで絵を見るときに注目するポイントを11のヒントとして紹介した。これを展示室で壁面に大きく提示するとともに、体感できるようなヒントも用意。また鑑賞して感じたことや意見を記入するカード「不思議のタネ」を設置し、記入後は展示室の一角に掲示した。関連プログラムでは、鑑賞の助けとなるよう、展覧会担当と参加者が作品について話しながら展示室を巡る内容のギャラリーツアーやワークショップを実施した。また、観覧の機会をより多く提供すべく、ファミリーデイや丸亀市民のための無料観覧日を設けた。

本展を通して自分の考えを見つめるとともに、他の人の意見にも触れ、作品や美術館を身近に感じるきっかけを提供することができたようである。

刊行物　カタログ

制作物　展示ガイド兼作品リスト
子ども向けリーフレット

入場者数　**7,686**人

関連企画

ファミリー鑑賞ツアー

5月1日(土)、6月5日(土)　各日13時30分～
会　　場　2階造形スタジオ、3階展示室C
参加者数　66名
見学者数　10名（2日間合計）

ヒントで絵さがし

4月24日(土)　10時～12時
会　　場　2階造形スタジオ、3階展示室C
参加者数　9名

チャレンジ！君もキュレーター

5月22日(土)、6月26日(土)　10時～12時
会　　場　2階造形スタジオ、3階展示室C
参加者数　9名
見学者数　24名（2日間合計）

展示「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(ミモカ)の鑑賞教育活動について」

4月10日(土)～7月4日(日)（ただし4月25日(日)のみ休室　計85日間）
会　　場　2階造形スタジオ
入場者数　4,342名

おしゃべり鑑賞ツアー

4月11日(日)、18日(日)、25日(日)、5月2日(日)、3日(月・祝)、4日(火・祝)、5日(水・祝)、9日(日)、16日(日)、23日(日)、30日(日)、6月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日)、7月4日(日)
14時～
参加者数　179名(16日間合計)

丸亀市在住、通勤、通学の方のための無料観覧日

4月16日(金)、23日(金)、30日(金)、5月7日(金)、14日(金)、21日(金)、28日(金)、6月4日(金)、11日(金)、18日(金)、25日(金)、7月2日(金)
参加者数　33名(12日間合計)

ファミリーデイ

5月1日(土)、6月5日(土)
概　　要　高校生以下1名につき、同伴の大学生または一般1名が観覧無料
参加者数　92名

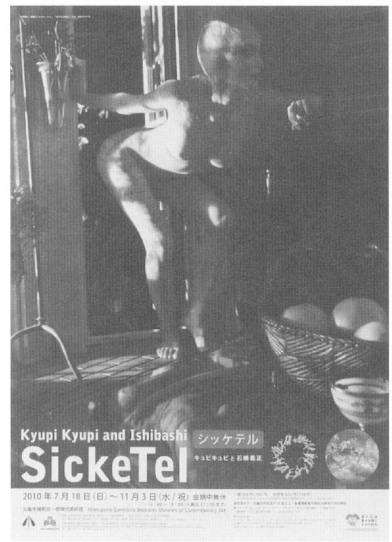
109 SickeTel ―キュピキュピと石橋義正

会　　期　2010年７月18日(日)～11月３日(水・祝)

会　　場　１階エントランス、２階美術図書室、３階展示室Ｃ、３階カフェレスト MIMOCA

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

助　　成　財団法人地域創造、芸術文化振興基金



映像と演出を手がける石橋義正を中心に、空間設計と造形を担当する木村真束、ヴィジュアルデザインとアニメーションを担当する江村耕市の３名で活動する映像＆パフォーマンス･ユニット“キュピキュピ”は、美術館やアートセンターでの作品展示とホールやカフェでのライブ・パフォーマンスという２つの活動形態を連環させ、アートとエンターテイメントの領域を自在に往還してきた。

キュピキュピとその主宰者であり映画監督として映像コンテンツの制作に携わる石橋義正を国内の美術館として初めて大規模に紹介する本展は、当館の展示空間を活かしたキュピキュピの大型映像インスタレーション《シッケモニカ》をはじめ、石橋義正の映像作品《BLACK RINA》《WHITE SNAKE》など最新作を中心に構成。キュピキュピと石橋義正がつくりだすめくるめく映像世界を体感できる展示となった。

このような斬新かつアトラクティブな展示と並んで、本展ではライブショーや上映イベントなどさまざまな関連プログラムを実施すると同時に、「展示制作サポートスタッフ」制度の導入など、地域住民と美術館あるいは地域住民と展覧会との橋渡しとなるようなプログラムを実施し、地域社会との連携に重点的に取り組んだ。

撮影：石橋義正

刊行物　カタログ
制作物　展示ガイド兼作品リスト
　　子ども向けリーフレット

入場者数　**19,391** 人

関連企画

SickeTel 前夜祭〈SickeTel〉プレビュー＋ライブ〈シッケモニカ〉

7月17日(土)　18時～21時
会　　場　1階エントランスホール他
出　　演　キュピキュピ、川口ゆい、mama ! milk
概　　要　プレビューと約6年ぶりとなるライブ・パフォーマンスの組み合わせを「前夜祭」として実施した。
料　　金　2,500円(1ドリンク付)
参加者数　226名(招待146名、一般80名)

オープニングトーク

7月18日(日)　14時～15時30分
会　　場　2階ミュージアムホール
講　　師　キュピキュピ(石橋義正、木村真束、江村耕市)
参 加 料　無料
参加者数　83名

クロージングトーク

11月3日(水・祝)　14時～15時30分
会　　場　2階ミュージアムホール
講　　師　キュピキュピ(石橋義正、木村真束、江村耕市)
参 加 料　無料
参加者数　111名

キュレーターズ・トーク

7月25日(日)、8月8日(日)、22日(日)
9月5日(日)、10月24日(日)
各日14時～14時40分
参 加 料　無料
参加者数　58名(5日間合計)

夜の SickeTel

7月31日(土)、8月14日(土)、9月11日(土)
10月9日(土)　各日18時～21時
概　　要　日中とは違った雰囲気で展覧会をお楽しみいただく大人のための夜間開館を実施した。
参 加 料　通常の観覧料

関連映像作品上映イベント

概　　要　SSM、石橋プロダクションの協力を得て映像コンテンツを借用し、上映イベントを実施した。
会　　場　2階ミュージアムホール
料　　金　1日有効　上映イベントのみ1,000円　／〈SickeTel〉観 覧 チケットをお持ちの方　500円

〈Aプログラム〉
『オー！マイキー・フィーバー』(2007年／40分)
13時／15時30分
『人形芸人ドント＆ノット　ザ☆ムービー』(2009年／60分)　14時／17時
8月1日(日)13名、15日(日)18名、28日(土)16名、29日(日)21名、9月23日(木・祝)19名、10月2日(土)20名、3日(日)16名、30日(土)21名、31日(日)20名

〈Bプログラム〉
『カラー・オブ・ライフ』(2001年／88分)
14時／16時
9月12日(日)9名、25日(土)9名、26日(日)1名、10月10日(日)4名

〈Cプログラム〉
『狂わせたいの』(1997年／60分)　19時
7月31日(土)27名、8月14日(土)31名
9月11日(土)54名、10月9日(土)42名
参加者数　計341名

関連ワークショップ

1.ミズマツリ

概　　要　提灯やうちわ、お面を制作し、オリジナルのお祭り《ミズマツリ》を開催するワークショップであり、通常の造形活動からさらに踏み込んで、お祭りの制作や盆踊りといった協働を目的として実施した。

・ワークショップ

8月4日(水)～6日(金)　各日10時～12時／13時30分～15時30分

会　　場　2階造形スタジオ

・お祭り

8月7日(土)　15時～19時頃

会　　場　1階ゲートプラザ

講　　師　Antenna(田中英行、市村恵介、古川きくみ)ほか

対　　象　子どもから大人まで

定　　員　8月4日～6日／各回40名
　　8月7日／人数制限なし

参 加 料　無料

参加者数　263名

見学者数　83名(4日間合計)

2.ヤモリが動く?簡単コマ撮りアニメ ヤモリの壁プロジェクト

9月18日(土)～20日(月・祝)　各日10時～12時／13時30分～15時30分

会　　場　2階造形スタジオ

講　　師　江村耕市(キュピキュピ・メンバー／京都嵯峨芸術大学准教授)

概　　要　ヤモリの型紙を使って2Dのコマ撮りアニメーションを制作するワークショップを実施した。

対　　象　子どもから大人まで

定　　員　各回40名

参 加 料　1回100円

協　　力　Breaker Project、NPO法人 remo

参加者数　92名

見学者数　58名(3日間合計)

3.ねんどでつくるアニメーション!

10月17日(日)　13時～16時30分

会　　場　2階造形スタジオ

講　　師　フナビキアキ(映像作家／『人形芸人ドント&ノット』監督)

概　　要　クレイアニメ(粘土の形を少しずつ変えて撮影した写真をつなぎ合わせる)を制作するワークショップを実施した。

対　　象　小学3年生～6年生

定　　員　20名

参 加 料　無料

参加者数　20名

見学者数　26名

地域連携プログラム1:ワークショップ〈おもてなしプロジェクト〉

概　　要　遠来のお客様が丸亀市内、特に駅前などの中心市街地で有意義な時間を過ごしていただけるよう、美術館周辺のおすすめマップをワークショップ形式で制作し、ウェブで公開した。

内　　容　美術館周辺マップの共同制作(取材・編集・デザインなど)

①説明会・企画ミーティング
　6月20日(日)　15時～18時

②制作期間
　6月21日(月)～11月3日(水・祝)

参 加 費　無料

参加者数　10名

地域連携プログラム2:展示制作サポートスタッフ

活動内容　映像インスタレーション作品の展示制作補助など(登録制ボランティア)

活動期間　7月7日(水)～7月15日(木)

参加者数　48名(9日間合計)

110 杉本博司　アートの起源｜科学

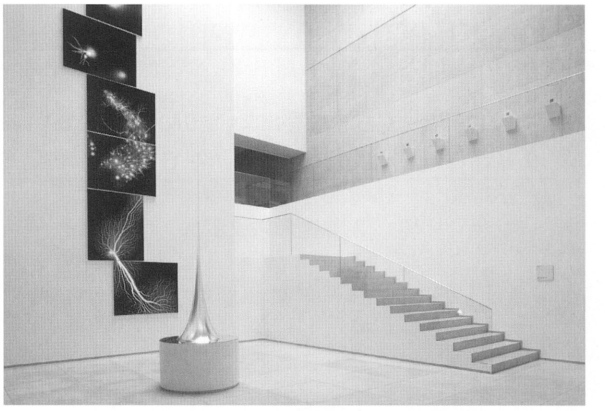
会　　期　2010年11月21日(日)～2011年２月20日(日)
[年末休館:12月25日～31日]

会　　場　１階エントランス、２階展示室Ｂ、３階展示室Ｃ

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

協　　力　財団法人小田原文化財団、ギャラリー小柳

杉本博司は、写真というメディアを追究し、考え抜かれたコンセプトと最高の技術による美しくも力強い表現で世界中の人々を魅了してきた。その魅力を余すところ無く紹介するため、一年にわたり４つの展覧会を次々に開催する画期的なプロジェクトの第一弾として本展では「科学」をテーマに杉本芸術を展観、古来、人間のみが自然を畏れつつも近づき解き明かそうとしてきた、その科学的好奇心に注目し「アートの起源」をたどる。杉本自身、作品のテーマに科学的な思考を包含している。１階エントランスの壁を上までつたう《放電場構成》は、暗室で人工的に起こした放電現象をフィルムに直接感光させた《放電場》シリーズの一つである。３階展示室Ｃでは、そのフィルムにライトボックスの光を透過させた《放電場電飾》を、中央にしつらえられた大きな「階（きざはし）」に沿わせた大胆なインスタレーションとして見せた。２階展示室Ｂでは、大きな空間に抽象的な図像のポラロイド写真、分光した太陽光を撮った《偏光色》をミニマムに並べた展示で意表をついた。本展出品作は、杉本の多方面からの科学的アプローチによって生み出されたものであり、連綿と受け継がれてきた人間の科学的精神の杉本による集結とも言える。どの作品も、事象の根源に迫るとともに、原始的なダイナミズムと不思議な美しさをたたえていた。



© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of the artist

制作物　解説パンフレット
会場図・作品リスト
子ども向けリーフレット

入場者数 **17,653** 人

関連企画

「安藤洋子 ソロ・パフォーマンス えれきてる」
「トークショウ 杉本博司×安藤洋子」

11月21日(日)　19時30～21時
会　　場　1階エントランス、2階展示室B、3階展示室C、2階ミュージアムホール
概　　要　ドイツを拠点に世界で活躍するダンサー安藤洋子が、展示室内にて本展の為の新作パフォーマンスを披露した。パフォーマンス終了後は、杉本と安藤の対談を行った。
料　　金　一般2,500円、年間パスポート所持者・高校生以下または18歳未満・ミモカフレンド会員2,000円
参加者数　115名

キュレーターズ・トーク

2010年11月28日(日)、12月5日(日)、12日(日)、19日(日)、2011年1月2日(日)、9(日)、16日(日)、23日(日)、30日(日)、2月6日(日)、13日(日)、20日(日)
各日14時～15時
①10時～12時　②13時30分～15時30分
参加料　無料
参加者数　332名(12日間合計)

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横×奥行きcm)	所蔵
1	放電場構成001	2007-2008	ゼラチン・シルバー・プリント	6点のイメージで構成、各150.5×120.7	個人蔵
2	観念の形　011　負の定曲率曲面、回転面 $x = \cos u/\cosh v$ $y = \sin u/\cosh v$ $z = v - \tanh v$ $(0 \leq u < 2\pi, 0 \leq v < \infty)$	2008	アルミ削りだし、鏡	高さ300.0、直径70.0	個人蔵
3－52	偏光色　001－050	2010	ポラロイド写真、光学ガラス	イメージ7.7×7.9、ガラス20.0×20.0×3.5	個人蔵
53	アイザック・ニュートン　『自然哲学の数学的諸原理(プリンキピア)』	1739-42 (初版1687)	紙、インク	2冊を展示、23.9×18.0	個人蔵
54	アイザック・ニュートン　『光学』	初版1704	紙、インク	23.1×18.6	個人蔵
55	放電場電飾　004	2008	ライトボックス、白黒フィルム	177.8×111.7×7.6	個人蔵
56	放電場電飾　005	2008	ライトボックス、白黒フィルム	177.8×111.7×7.6	個人蔵
57	放電場電飾　006	2008	ライトボックス、白黒フィルム	177.8×111.7×7.6	個人蔵
58	放電場電飾　007	2008	ライトボックス、白黒フィルム	177.8×111.7×7.6	個人蔵
59	放電場電飾　009	2008	ライトボックス、白黒フィルム	177.8×111.7×7.6	個人蔵
60	放電場電飾　010	2008	ライトボックス、白黒フィルム	177.8×111.7×7.6	個人蔵
61	放電場電飾　011	2008	ライトボックス、白黒フィルム	177.8×111.7×7.6	個人蔵
62	ファラデー・ケージ	2010	ミクストメディア	鳥かご50.0×30.0×40.0、 スタンド156.0×53.0×43.0	個人蔵
63	雷神来人図	2010	幔幕(絹)	2隻の幔幕で構成、各200.0×1200.0	個人蔵
64	雷神像	鎌倉時代	木彫、着色、象眼	高さ63.6	個人蔵
65	放電場128	2009	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	Courtesy of Gallery Koyanagi

111 杉本博司　アートの起源｜建築

会　　期　2011年３月６日(日)～５月15日(日)

会　　場　１階エントランス、２階展示室Ｂ、３階展示室Ｃ

主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

協　　力　財団法人小田原文化財団、ギャラリー小柳

初回の「科学」に続き第２回展となる本展は、写真を主軸としながらもさまざまな表現に取り組む杉本の活動のうち「建築」をテーマとして取り上げ、建築家としての杉本博司の活動を実作の模型で紹介する展示から始めた。続いて、奈良時代に建立された当麻寺東塔の古材と、現在の東塔の姿をとらえた大判写真等からなる巨大なインスタレーション《反重力構造》によって、重力に抗い、上に向かって構造物を建てようとしたいにしえの人々の営みを、エントランスから２階展示室へと広がる迫力ある構成で展示した。そして、２階展示室Ｂには杉本が1990年代後半から取り組んできた〈建築〉シリーズを紹介し、建築家の着想を写真によって引き出している。

これら１階から２階にかけて展示された作品群が、建造物という具体性のある建築的対象を取り上げた構成となっていることに対して、３階の展示室Ｃでは、「建築」の起源や「建築」のこれから、そして人類進化と住処の関連性といった概念としての「建築」に迫る内容となっており、その対比も鮮明であったことから、非常に印象に残る展示となった。

制作物　解説パンフレット
会場図・作品リスト
子ども向けリーフレット

入場者数　**12,281**人

関連企画

オープニング・イベント 特別内覧会

2011年3月5日(土)　14時～17時
概　　要　丸亀市民特別サポーター、コーポレート・メンバー(協賛企業)ら本展の広報拠点となる地域住民をお招きし、学芸員による解説付きで本展をご覧いただいた。
料　　金　無料
参加者数　107名

対談：谷口吉生・杉本博司

2011年4月1日(金)19時～20時40分
会　　場　2階ミュージアムホール
概　　要　当館の設計者である建築家の谷口吉生氏と、その空間で展覧会を開催する杉本博司氏による対談を実施した。
参 加 料　無料
参加者数　217名

キュレーターズ・トーク

2011年3月5日(土)、6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日)、4月3日(日)、9日(土)、10日(日)、17日(日)、24日(日)、5月1日(日)、8日(日)、14日(土)、15日(日)
各日14時～15時
参 加 料　無料
参加者数　495名(14日間合計)

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横×奥行きcm)	所蔵
1	護王神社ーアプロプリエイトプロポーション　雛形	2003	ミクストメディア	本体:101.0×214.0×94.0 台座:高さ103.0	財団法人小田原文化財団
2	反重力構造	2008	ミクストメディア	可変	個人蔵
3	S.C.ジョンソンビル(建築家:フランク・ロイド・ライト)	2001	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	個人蔵
4	ノートルダム・デュ・オー礼拝堂(建築家:ル・コルビュジエ)	1998	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
5	グッゲンハイム美術館、ニューヨーク(建築家:フランク・ロイド・ライト)	1997	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
6	森の礼拝堂(建築家:エリック・グンナール・アスプルンド)	2001	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
7	光の教会(建築家:安藤忠雄)	1997	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
8	トゥラルパンの礼拝堂(建築家:ルイス・バラガン)	2002	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
9	観念の形　008　回転楕円面を覆う一般化されたヘリコイド曲面	2006	アルミ、光学ガラス台座	本体:高さ262.2 台座:高さ48.5	個人蔵
10	常滑　大甕	室町時代	陶器	高さ57.0　直径75.0	個人蔵
	屋久杉　敷板	樹齢推定2000年		86.5×339.5	個人蔵
11	醍醐寺幔幕写し	2010	絹	200.0×1200.0	個人蔵
12	数学的形体:曲面0003　ディニ曲面:擬球をねじって得られる負の定曲率曲面	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
13	数学的形体:曲面0009　負の定曲率曲面、円錐型の回転面	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
14	数学的形体:曲面0004　オンデュロイド:平均曲率が0でない定数となる回転面	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
15	数学的形体:曲面0002　負の定曲率曲面、双曲型の回転面	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
16	数学的形体:曲面0012　対角型クレブッシュ曲面、三次曲面上の27本の直線	2004	ゼラチン・シルバー・プリント	149.2×119.4	国立国際美術館
17	陰翳礼賛	1998	白黒フィルム、和蝋燭、ガラス燭台	20.3×25.4	個人蔵
18	陰翳礼賛	1998	白黒フィルム、和蝋燭、ガラス燭台	20.3×25.4	個人蔵
19	陰翳礼賛	1998	白黒フィルム、和蝋燭、ガラス燭台	20.3×25.4	個人蔵
20	陰翳礼賛	1998	白黒フィルム、蝋燭、ガラス燭台	20.3×25.4	個人蔵

Ⅱ 展覧会事業

iii 常設展「猪熊弦一郎展」

鳥　2009年4月11日(土)～7月5日(日)

猪熊が好んで描いたモチーフの一つに鳥があり、晩年の作品によく見られる。実在の鳥ではなく、猪熊の作り出した架空の鳥たちを描いている。スタンプの鳥もいれば、鋭角をくちばしに見立てそばに小さな丸い目を加えただけの鳥の顔もあり、作品中の様々な鳥の表現を紹介した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
1	自画像	1925	油絵・カンヴァス	37.8 × 37.8
2	フラミンゴ楽園	1938	油絵・カンヴァス	80.5 × 64.5
3	鳥と遊ぶ子供達	1954	油絵・カンヴァス	193.5 × 130.0
4	猫と烏	1954	油絵・カンヴァス	80.2 × 99.7
5	鳥の言葉	1983	アクリル・紙	59.5 × 44.0
6	二羽の鳥	1984	アクリル・紙	59.5 × 43.9
7	爬虫類と鳥B	1984	アクリル・紙	59.4 × 44.5
8	都市呼吸	1985	アクリル・カンヴァス	101.0 × 121.0
9	枝の中の自由地帯	1985	アクリル・カンヴァス	96.0 × 126.0
10	題名不明	1985	アクリル・紙	60.8 × 45.8
11	鳥とヤシの対面	1985	アクリル・紙	59.0 × 46.4
12	鳥達と馬集合	1986	アクリル・紙	58.7 × 46.4
13	鳥と人達の会話	1986	アクリル・紙	58.5 × 46.5
14	鳥のアソシエーション	1986	アクリル・紙	58.5 × 44.5
15	鳥は前を向いて居る	1986	アクリル・紙	58.0 × 46.5
16	鳥休む	1986	アクリル・紙	39.2 × 51.3
17	顔31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
18	二つの裸婦と一つの顔	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
19	鳥とヴイナス	1990	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
20	5鳥・13顔	1990	アクリル・カンヴァス	121.5 × 101.0
21	鳥とドール	1990	アクリル・カンヴァス	112.0 × 96.0
22	飛ぶ	1990	アクリル・カンヴァス	110.5 × 96.0
23	ロボット　顔　鳥	1990	アクリル・カンヴァス	96.0 × 110.8
24	鳥4	1990	アクリル・紙	60.0 × 44.4
25	鳥の出会ひ	1990	アクリル・紙	59.4 × 44.4

作品リスト

No.	作　品　名	制作年	技法・材質	サイズ（縦×横cm）
26	朝の鳥	1990	アクリル・紙	46.7 × 59.7
27	裸子1　鳥11　馬2	1991	アクリル・カンヴァス	135.0 × 122.0
28	横臥裸子1　顔4　鳥10	1991	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.0
29	黒鳥の休日	1991	アクリル・カンヴァス	127.0 × 92.0
30	横臥裸子と鳥達	1991	アクリル・カンヴァス	96.0 × 127.0
31	鳥達の空間	1991	アクリル・カンヴァス	96.0 × 65.5
32	顔たちの祭典	1992	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
33	鳥達の遊び	1993	アクリル・カンヴァス	151.9 × 122.0
34	飛ぶ日のよろこび	1993	アクリル・カンヴァス	137.3 × 122.1
35	風車と鳥	1993	アクリル・カンヴァス	137.0 × 122.0
36	裸子と鳥	1993	アクリル・カンヴァス	137.0 × 121.9
37	顔・鳥・犬	1993	アクリル・カンヴァス	126.5 × 95.9
38	夜明けの鳥たち	1993	アクリル・カンヴァス	126.2 × 90.9
39	ダボとカガシ	1993	アクリル・カンヴァス	120.8 × 101.4

入場者数　**8,846** 人

新たな展開と街　2009年7月12日(日)～10月18日(日)

1955年にニューヨークを初めて訪れ、大きな衝撃を受けた猪熊は、それまでの具象画から抽象画へと画風をがらりと変え、やがて新しい主題「街」を描くようになる。猪熊によって、街がどのように表現されたかを紹介した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	38.3 × 38.0
2	Composition No.2	1957	油彩・カンヴァス	133.5 × 136.0
3	街の言葉	1957	水彩・紙	38.0 × 49.0
4	極地設定 (1)	1958	油彩・カンヴァス	176.5 × 205.3
5	星座	1958	油彩・カンヴァス	200.5 × 180.0
6	Sit Opposite on a Head	1960	油彩・カンヴァス	178.0 × 140.0
7	無題	1960	アクリル・紙	33.7 × 52.0
8	無題	1960	アクリル・紙	33.7 × 52.0
9	古い金へのあこがれ	1961	油彩・カンヴァス	216.1 × 168.0
10	赤い絵　ニューヨーク	1961	アクリル・紙	100.7 × 74.5
11	夜の誕生	1962	油彩・カンヴァス	152.4 × 127.2
12	Niwa	1962	油彩・カンヴァス	152.0 × 127.4
13	Square	1962	油彩・カンヴァス	127.0 × 101.8
14	Lively Street	1964	アクリル・カンヴァス	152.6 × 127.5
15	Blue Street	1966	アクリル・カンヴァス	171.9 × 98.9
16	Landscape QR	1966	アクリル・カンヴァス	126.8 × 127.1
17	The City Blue No.2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.5
18	The City (Green No.1)	1968	アクリル・カンヴァス	203.5 × 178.0
19	The City (Green No.2)	1968	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.0
20	The City Planning Yellow (No.2)	1968	アクリル・カンヴァス	203.4 × 152.7
21	The City (Green No.4)	1968	アクリル・カンヴァス	203.0 × 152.5
22	The City Green No.3	1968	アクリル・カンヴァス	202.8 × 152.4
23	City Planning Yellow No.1	1968	アクリル・カンヴァス	152.0 × 153.0
24	風景	1972	アクリル・カンヴァス	178.0 × 202.5

入場者数 **12,879** 人

回顧展　2009年10月25日(日)～2010年1月11日(日・祝)

猪熊の画業を回顧し展観した。具象から抽象への形象上の変化、色彩やモチーフの移り変わりなど、新しい表現を探求することで画風が変化し続けたこと自体が猪熊の特色であることの紹介となった。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	38.3 × 38.0
2	習作（美術学校時代）	1925頃	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.0
3	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8 × 91.0
4	眠れる女	1927	油彩・カンヴァス	116.8 × 90.9
5	着物の婦人	1930	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.0
6	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	180.0 × 290.0
7	二人	1936	油彩・カンヴァス	194.0 × 130.0
8	アンブレラの女	1938	油彩・カンヴァス	54.6 × 45.5
9	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8 × 60.0
10	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2 × 65.4
11	マニラ娘	1942	油彩・カンヴァス	45.6 × 35.7
12	青い服	1949	油彩・カンヴァス	79.0 × 64.5
13	二人の子供	1950	油彩・カンヴァス	73.0 × 61.0
14	猫と住む人	1952	油彩・カンヴァス	130.8 × 193.5
15	題名不明	1954頃	油彩・カンヴァス	24.0 × 33.2
16	獅子舞	1961	油彩・カンヴァス	203.0 × 183.0
17	道	1964	油彩・カンヴァス	157.8 × 91.5
18	Landscape E	1975	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
19	角と丸　CW	1977	アクリル・カンヴァス	190.3 × 175.3
20	都市の中の親しい仲間	1979	アクリル・カンヴァス	96.5 × 125.4
21	右側に指あり	1981	アクリル・カンヴァス	111.7 × 96.3
22	無重力地帯の中に住む生物	1983	アクリル・カンヴァス	234.5 × 122.0
23	通信衛星	1986	アクリル・カンヴァス	194.0 × 259.0
24	違った星座の仲間	1986	アクリル・カンヴァス	182.0 × 152.0
25	顔40	1988	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.0
26	カガシと顔達	1993	アクリル・カンヴァス	121.0 × 101.5

入場者数 **10,730** 人

モノクローム　2010年1月24日(日)～2010年3月31日(水)

同時開催の特別展「猪熊弦一郎展　色いろいろ」と対比し、猪熊が描いたモノクロームの世界に焦点を当てた。1980年代に描かれた作品を中心に出品しており、色を抑えることで描かれた形や筆致がつくり出す独特のリズム感が立ち現れてくる。それは音楽に喩えるなら独奏曲のような趣を持っており、猪熊の違った一面を見ることのできる展示となった。

作品リスト

No.	作　品　名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	37.8 × 37.8
2	ロボット	1977	アクリル・紙	72.0 × 55.0
3	都市再製	1980	アクリル・紙	40.5 × 30.0
4	機械の旅行	1981	アクリル・紙	74.5 × 55.4
5	モニュメンタルな窓	1981	アクリル・紙	61.0 × 44.4
6	SEVEN WINDOWS	1981	アクリル・紙	61.0 × 44.4
7	都市遊歩	1981	アクリル・紙	59.5 × 44.4
8	エキサイトフル　スペイス	1982	アクリル・紙	59.5 × 44.3
9	機械と鳥	1982	アクリル・紙	59.5 × 43.9
10	違った対面	1982	アクリル・紙	44.0 × 59.0
11	二羽の鳥	1984	アクリル・紙	59.5 × 43.9
12	爬虫類と鳥　A	1984	アクリル・紙	59.4 × 44.4
13	ロボット	1984	アクリル・紙	59.4 × 44.4
14	丸の住む所	1984	アクリル・紙	58.5 × 44.5
15	鳥とヤシの対面	1985	アクリル・紙	59.0 × 46.4
16	プロペラと花	1985	アクリル・紙	46.9 × 58.4
17	パイピング集合　B	1986	アクリル・紙	58.5 × 46.4
18	パイピングの集合（A）	1986	アクリル・紙	58.3 × 47.0
19	描く	1986	アクリル・紙	44.5 × 58.3
20	道	1986	アクリル・紙	44.4 × 59.4
21	ロボット歩く	1986	アクリル・紙	44.4 × 59.3

入場者数　**6,400**人

顔とハワイ時代　2010年4月10日(土)～2010年7月11日(日)

晩年の猪熊は東京のほか自然のあふれるハワイにもアトリエを構えていた。ハワイの自然が見せる複雑な形に触発されたかのような、さまざまな形で構成した作品、たくさんの顔だけを描いた作品、そして顔、動物、そのほかの形を組み合わせた作品を制作している。いずれも形の面白さが際立つ、すみずみまで見所満載の作品を紹介した。

作品リスト

No.	作　品　名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	41.1 × 41.5
2	花嫁のスケジュール	1979	アクリル・カンヴァス	180.0 × 105.2
3	都市発芽	1980	アクリル・紙	110.8 × 94.7
4	都市満花	1980	アクリル・紙	80.5 × 75.5
5	宇宙は機械の運動場　No.2	1981	アクリル・カンヴァス	200.0 × 250.0
6	ユーラシアの愛人達	1981	アクリル・カンヴァス	111.5 × 96.0
7	宇宙生物の限界	1982	アクリル・カンヴァス	116.7 × 91.0
8	白地群生	1982	アクリル・紙	59.5 × 44.4
9	遊歩地コンポジション	1982	アクリル・紙	59.5 × 44.4
10	愉快な友達	1982	アクリル・紙	59.5 × 44.4
11	黒の中の六つのスペース	1982	アクリル・紙	59.5 × 43.9
12	遊園の中の直線	1982	アクリル・紙	59.2 × 43.9
13	アリゾナ通信	1984	アクリル・カンヴァス	111.2 × 96.0
14	ロックミュージック	1984	アクリル・カンヴァス	111.2 × 96.0
15	青いパーク祭	1986	アクリル・カンヴァス	122.0 × 101.0
16	黄色の星座都市	1986	アクリル・カンヴァス	122.0 × 101.0
17	形のパレード	1986	アクリル・カンヴァス	111.8 × 96.0
18	未知の世界への着地	1987	アクリル・カンヴァス	137.2 × 122.0
19	体操と水	1987	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.0
20	宇宙都市計画	1987	アクリル・カンヴァス	135.8 × 121.0
21	顔35	1988	アクリル・カンヴァス	121.5 × 101.5
22	顔23（B）	1988	アクリル・カンヴァス	100.0 × 80.5
23	顔20C	1989	アクリル・カンヴァス	152.0 × 121.4
24	顔71	1989	アクリル・カンヴァス	135.9 × 121.4
25	顔20B	1989	アクリル・カンヴァス	127.1 × 96.4
26	顔19	1989	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.4
27	顔20	1989	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.3
28	仮面の歌	1991	アクリル・カンヴァス	150.0 × 122.0
29	ドラマティック　ステージ	1991	アクリル・カンヴァス	96.0 × 111.0
30	真昼のカーニヴァル	1992	アクリル・カンヴァス	121.0 × 101.5
31	広い宇宙空間に顔が存在する	1992	アクリル・カンヴァス	121.5 × 100.8

入場者数　**8,542**人

回顧展、Water Blue　2010年7月18日(日)～11月7日(日)

猪熊は70年の画業を通じて作風が何度が大きく変わっている。若いころの写実的な具象画、渡仏時代のデフォルメが加えられた人物像、戦後の幾何学的に描かれた猫や人、渡米後は完全な抽象表現となり、ハワイ時代には色鮮やかな有機的な表現があらわれる。新しい表現へのたゆまぬ挑戦を回顧的に展示することにより紹介した。展示室Bでは青が印象的な作品を展示した。

作品リスト

No.	作　品　名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	53.5 × 45.5
2	眠れる女	1927	油彩・カンヴァス	116.8 × 90.9
3	黄昏	1937	油彩・カンヴァス	193.5 × 130.5
4	昼	1937	油彩・カンヴァス	191.5 × 129.0
5	にんにく売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5 × 53.4
6	フランス田舎	1938	油彩・カンヴァス	80.2 × 65.0
7	魚と女	1939	油彩・カンヴァス	91.5 × 53.4
8	セロを弾く男	1939	油彩・カンヴァス	60.8 × 45.7
9	ヴェニス	1939	油彩・カンヴァス	59.0 × 91.0
10	レゼジーの駅	1939	油彩・カンヴァス	48.6 × 59.8
11	浴女	1940	油彩・カンヴァス	80.5 × 64.5
12	ヴィナス誕生（B）	1940	油彩・カンヴァス	80.5 × 64.0
13	ヴィナス誕生（A）	1940	油彩・カンヴァス	79.5 × 64.5
14	バレリーナの夢想	1950	油彩・カンヴァス	131.0 × 162.0
15	Haniwa 1	1956	油彩・カンヴァス	106.4 × 175.5
16	並木道	1964	油彩・カンヴァス	152.5 × 101.5
17	Blue Streets	1966	アクリル・カンヴァス	171.9 × 98.9
18	The City Blue No.2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.5
19	Two Shores B	1970	アクリル・カンヴァス	203.7 × 178.0
20	Two Shores D	1970	アクリル・カンヴァス	203.7 × 177.8
21	Two Shores A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3 × 178.0
22	Water Shores B	1970	アクリル・カンヴァス	203.3 × 178.0
23	Landscape BY	1972	アクリル・カンヴァス	203.5 × 178.8
24	ピンク・丸・角	1977	アクリル・カンヴァス	110.3 × 95.0
25	太陽は待って居る	1987	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
26	顔32	1988	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.7
27	二人の裸婦と一つの顔	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
28	青い裸婦	1990	アクリル・カンヴァス	130.5 × 97.2
29	横臥裸子と鳥達	1991	アクリル・カンヴァス	96.0 × 127.0
30	或晴れた一日	1992	アクリル・カンヴァス	136.0 × 122.0

入場者数 **20,717** 人

ニューヨーク時代 1955-63年の作品から　2010年11月21日（日）～2011年2月20日（日）

猪熊がニューヨークで制作した20年間（1955－75年）のうち、前半の1955－63年の間に描いた作品を、具象から抽象への変化の過程に注目して紹介した。活気あふれる新天地が刺激となって、具体的なものの形は次第に描かれなくなり、やがて幾何学的な形や色のかたまりが動きのある筆致で表されるようになった。

作品リスト

No.	作　品　名	制作年	技法・材質	サイズ（縦×横cm）
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	38.3 × 38.0
2	Calm	1956	油彩・カンヴァス	157.0 × 91.5
3	Suihei no Michi	1956	油彩・カンヴァス	112.0 × 152.0
4	星座	1958	油彩・カンヴァス	200.5 × 180.0
5	極地設定（1）	1958	油彩・カンヴァス	176.5 × 205.3
6	古い金へのあこがれ	1961	油彩・カンヴァス	216.1 × 168.0
7	音のあそび	1961	油彩・カンヴァス	152.5 × 152.5
8	Red Composition	1961	油彩・カンヴァス	127.0 × 127.0
9	Twist	1962	油彩・カンヴァス	157.2 × 91.5
10	Greeting of Neighborhood	1962	油彩・カンヴァス	152.5 × 127.2
11	四角と丸	1963	油彩・カンヴァス	203.4 × 127.0

入場者数 **17,910** 人

身体の表現　2011年3月6日(日)～5月15日(日)

猪熊が、美しい造形であると考え繰り返し描いた、身体の多彩な表現を取り上げた。青年時代には写実的な表現がなされたが、次第に勢いのある太い輪郭線やデフォルメ（変形）によって、ボリューム感などが強調された猪熊独自の身体表現が培われていく。また晩年、身体は丸や角などのシンプルな幾何学的な形として捉えられた。

作品リスト

No.	作　品　名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	53.5 × 45.5
2	裸婦	1925	油彩・カンヴァス	100.0 × 80.5
3	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8 × 91.0
4	眠れる女	1927	油彩・カンヴァス	116.8 × 90.9
5	着物の婦人	1930	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.0
6	二人	1936	油彩・カンヴァス	194.0 × 130.0
7	支那服の女	1936	油彩・カンヴァス	145.0 × 112.0
8	浴女	1940	油彩、コンテ・カンヴァス	80.5 × 64.5
9	臥裸婦	1948	油彩・カンヴァス	65.5 × 80.4
10	横たはる裸婦	1948	油彩・カンヴァス	60.5 × 72.5
11	クッションと裸婦	1948	油彩・カンヴァス	45.7 × 52.8
12	座せる群像	1951	油彩・カンヴァス	131.2 × 162.5
13	建築と裸婦	1990	アクリル・カンヴァス	126.5 × 96.0
14	横臥裸子と鳥達	1991	アクリル・カンヴァス	96.0 × 127.0

入場者数 **12,736** 人

Ⅲ　教育普及事業

i　ワークショップ

子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし、育むことを目的として、主に小・中学生を対象にワークショップを開催した。

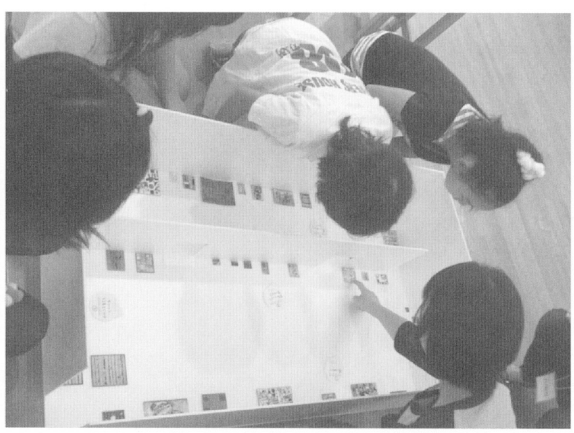
ワークショップ名	開催日時・会場	講　師	対　象	人数	見学者	参加費	内　容
「ろうけつ染めに挑戦!」	2009.5.16(土) 10:00～14:00 2階造形スタジオ	美術館スタッフ	小学校3年生～中学生	18人	12人	無料	水彩絵の具、筆で画用紙に下書きした後、加熱し溶かしたろうでTシャツに模様を描く。昼食後、染料で染める。
「夢色夏帽子」	2009.6.20(土)・21(日) 10:00～12:00 2階造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	26人 27人	18人 30人	無料	麦藁帽子に耐水性の絵の具やペンで絵を描いたり、造花やリボン、おまけなどの小物を取り付けて素敵な帽子をつくる。
【ダブル・ファンタジー:韓国現代美術展】関連ワークショップ 「色粉をつくって韓紙に描こう」	2009.7.18(土)・19(日) 10:00～15:00 2階造形スタジオ	イ・ウンシル (展覧会出品作家)	小・中学生 (小学生は保護者同伴、その場合保護者も参加者)	20人 17人	3人 7人	無料	スオウ(赤)やウコン(黄)といった植物を2時間ほど煮出し、実際に作家が制作に使う色粉を製作。作家が韓国から持参したアイ(青)を加えて三原色と墨(黒)で、韓紙に描く。途中、展示室にて自作についてのギャラリートークを行う。
夏休みオープンワークショップ 「マイ・デコ・バッグ」	2009.7.25(土)～30(木) 10:00～12:00 13:30～15:30 2階造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	529人 (6日間合計)	205人	300円	白いバッグにビーズやボタンをつけたり、ペンなどで絵や文字を描いて、世界に一つのオリジナルバッグをつくる。

ろうけつ染めに挑戦!
(2009.5)

ワークショップ名	開催日時・会場	講　師	対　象	人数	見学者	参加費	内　容
夏休みオープンワークショップ「新種発見!虫ワールド」	2009.8.5(水)～9(日) 10:00～12:00 13:30～15:30 2階造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	303人（5日間合計）	185人	200円	ペットボトルや針金、紙箱などをくみあわせて、見たことのない虫をつくる。
「まぜてのばして! のり絵の具」	2009.10.10(土)・17(土) 全2日 10:00～12:00 2階造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	12人	12人	無料	(1日目)ボンド水に浸した白布のうえに、小麦粉で作ったデンプン糊とポスターカラーを混ぜた[のり絵の具]で描く。(2日目)乾燥した布に小物などをつけ、面白い形に切り貼りして仕上げ、壁面に展示。
				11人	10人		
ミモカオープンワークショップ「ミモカ・マスターをめざせ! ～きみはいくつのクイズがとけるかな?」	2009.11.1(日)・3(祝)・8(日)・15(日)・22(日)・29(日) 10:00～17:30 美術館内	美術館スタッフ	子どもから大人まで	11人	0人	無料	「昭和　写真の1945-1989」展開催中のファミリー・デイに実施。ミモカにまつわるクイズが入った地図(ワークシート)を受付でもらい、解いたら正解シート(うらにぬり絵付き)で答え合わせをする。
				55人	0人		
				84人	0人		
				33人	0人		
				50人	0人		
「ドキドキ! ミモカ秘密の探検隊」	2009.11.23(祝) ①10:00～12:00 ②14:00～16:00 美術館内、バックヤード	美術館スタッフ	小・中学生	17人	0人	無料	「ミモカ・マスターをめざせ!～きみはいくつのクイズがとけるかな?」のスペシャル・バージョン。3つのチームに分かれ、美術館内を探検。優勝チームを決め、表彰式を行った。
				17人	0人		
「メディア・スパイ大作戦」	2009.12.12(土)・13(日) 13:00～17:00 2階造形スタジオ	会田　大也 菅沼　聖 (山口情報芸術センター)	小学4年生～大人	8人	5人	無料	携帯電話のカメラ機能を使い、鬼ごっこをするワークショップ。自分の身を隠しながら他のプレーヤーの姿を携帯のカメラで撮影し、メールで投稿しながらポイントを競う。参加者全員によるディスカッションによって公平かつ納得性が高いルールを作り上げる。
				11人	8人		

ドキドキ!ミモカ秘密の探検隊
(2009.11)

ワークショップ名	開催日時・会場	講　師	対　象	人数	見学者	参加費	内　容
【高嶺格　スーパーキャパシターズ】展関連ワークショップ 「手作り太陽電池」	2010.2.21(日) 10:00～12:00 2階造形スタジオ	太陽誘電株式会社　社員2名	小学生～大人	40人	6人	無料	果物(レモン)電池でオルゴールが鳴る実験を見学。植物は太陽エネルギーを化学エネルギーに変換して溜めていることを知る。ハイビスカスティーを濃縮させた色素等を使用して、太陽電池を作り、屋外で電気が発生しているか確かめた。
「フェルト道場 ～不思議な帽子を作ろう」	2010.3.20(土)・21(祝) 10:00～16:00 2階造形スタジオ	柳楽宏太郎 (東京芸術大学大学院)	小学校3年生以上	9人 15人	25人 45人	無料	作りたい帽子の形に合わせて型を選び、エアキャップに写し取る。型にあわせて羊毛をフェルト化し、最後に脱水機にかけて完成。
【ミカタのミカター絵を楽しむ11のヒント】展関連ワークショップ 「ヒントで絵さがし」	2010.4.24(土) 10:00～12:00 2階造形スタジオ、美術館内	美術館スタッフ	小学生～大人	9人	0人	無料	二つのチームに分かれ、展示室にて作品を1点選び、その特徴を3つのヒントカードに記入。それをもとに絵を探すワークショップ。
【ミカタのミカター絵を楽しむ11のヒント】展関連ワークショップ 「ファミリー鑑賞ツアー」	2010.5.1(土)・6.5(土) 13:30～15:00 2階造形スタジオ、 3階展示室C	美術館スタッフ	子どもと保護者	19人 47人	0人 10人	無料	造形スタジオにてミモカ・アートカードで遊ぶ。その後、展示室にて「ミカタのミカター絵を楽しむ11のヒント」を自由に話しながら見て回った。
【ミカタのミカター絵を楽しむ11のヒント】展関連ワークショップ 「チャレンジ! 君もキュレーター」	①2010. 5.22(土) ②6.26(土) 10:00～12:00 2階造形スタジオ、 3階展示室C	美術館スタッフ	①小学4年生～中学生 ②小学1年生～3年生	4人 5人	1人 23人	無料	キュレーターの仕事について理解した後に展覧会のテーマを決め、3階展示室の模型に縮小した猪熊作品のカードを貼り付け、ミニ展覧会を作る。②では後半、アートカードを使って作品鑑賞を行い、お互いに絵の印象について発表しあう。
本をつくるワークショップ 「ポン」	2010.5.3(祝) 12:00～ 13:30～ 15:00～ 1階ゲートプラザ	菊地　敦己 (アートディレクター)	子どもから大人まで	81人 (3回合計)	61人 (3回合計)	無料	グラフィックやサイン、プロダクトだけでなく装丁(ブックデザイン)でも大活躍の菊地敦己さんを講師に招き、簡単につくれる(「ポン」とつくれる)本づくりを体験した。



【ミカタのミカター絵を楽しむ11のヒント】展関連ワークショップ
「チャレンジ!君もキュレーター」
(20010. 5)

本をつくるワークショップ「ポン」
(2010. 5)

ワークショップ名	開催日時・会場	講　師	対　象	人数	見学者	参加費	内　容
夏休みオープンワークショップ 「おうちにかざろう 手づくり風鈴」	2010.7.23(金) ～28(木) 10:00～12:00 13:30～15:30 2階造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	460人 (6日間合計)	223人 (6日間合計)	200円	ペットボトルやテープの芯に、小石やボタン、キラキラビーズなどを吊るして、おもしろい風鈴をつくる。
【SickeTel―キュピキュピと石橋義正】展関連ワークショップ 「ミズマツリ」	2010.8.4(水) ～7(土) 10:00～12:00 13:30～15:30 2階造形スタジオ	Antenna (田中英行・市村恵介・古川きくみ)	子どもから大人まで	263人 (4日間合計)	83人 (4日間合計)	無料	8.4～8.6は、お祭りを盛り上げるためのアイテムをつくり、やぐらや会場を飾りつける。8.7はスペシャルゲストが教えるミモカオリジナル盆踊りで、ミズマツリを盛り上げる。
おもしろバッジをつくろう	2010.8.21(土)・22(日) 10:00～12:00 13:00～16:00 2階造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	128人 (2日間合計)	88人 (2日間合計)	100円	厚紙などに絵を描いて切り抜き、シールや色紙で飾りをつけて、オリジナルのバッジをつくる。
【SickeTel―キュピキュピと石橋義正】展関連ワークショップ 「ヤモリが動く? 簡単コマ撮りアニメ ―ヤモリの壁プロジェクト」	2010.9.18(土) ～20(祝) 10:00～12:00 13:30～15:30 2階造形スタジオ	江村　耕市 (出品作家／京都嵯峨芸術大学准教授)	子どもから大人まで	92人 (3日間合計)	58人 (3日間合計)	100円	型紙に色をぬったり紙を貼ったりしてできあがった自分だけのヤモリで、コマ撮りアニメーションをつくる。
第28回丸亀市スポーツ少年団交流大会 「ミモカとチームフラッグを作ろう!」	2010.10.11(祝) 10:00～11:30 飯山総合運動公園体育館メインアリーナ	美術館スタッフ	丸亀市スポーツ少年団 登録員・指導者・保護者関係者	300人	0人	無料	4、5人のチームになり、白い布にペンやリボン、テープや布で装飾し、チームのシンボルマークとスローガンを旗に入れることがルール。出来上がったらチームごとに旗のポイントを発表する。丸亀市スポーツ少年団との共催事業として実施。
【SickeTel―キュピキュピと石橋義正】展関連ワークショップ 「ねんどでつくる アニメーション」	2010.10.17(日) 13:00～16:30 2階造形スタジオ	フナビキアキ (《人形芸人ドント&ノット》の監督)	小学3年生～6年生	20人	26人	無料	ねんどでキャラクターをつくり、その形を少しずつ変えて撮影する。撮った写真をつなぎ合わせてオリジナルアニメーションをつくる。
開館記念イベント 「とっておきミモカガイド 2010」	2010.11.23(祝) ～28(日) 10:00～ 閉館まで 美術館内	美術館スタッフ	子どもから大人まで	875人 (6日間合計)	0人	無料	美術館のとっておきの場所や商品などを紹介する内容。A3のガイドにはそれぞれの場所についてのテキストとスタンプポイントがあり、すべてのスタンプが集まった人にシールをプレゼント。さらに抽選でミュージアムショップ商品をプレゼント。

ワークショップ名	開催日時・会場	講　師	対　象	人数	見学者	参加費	内　容
開館記念イベント「上映会〈guén　猪熊弦一郎〉」	2010.11.23(祝) 10：00～（毎時）閉館まで 全8回 2階ミュージアムホール	美術館スタッフ	子どもから大人まで	265人	0人	無料	映像教材「guén　猪熊弦一郎」（DVD、約16分）を上映。
「みんなで変身! 仮装パーティーへでかけよう」	2010.12.18(土) 10:00～12:30 2階造形スタジオ、ミュージアムホール	美術館スタッフ	小・中学生	15人	17人	無料	カラービニールや布、造花やCDなどの小物を使って、仮装パーティーに使用するアイテム（仮面、帽子、マント、ドレスなど）を1点作り、その後ミュージアムホールでファッションショーやダンスをした。
【杉本博司 アートの起源｜科学】展関連「親子ツアー」	2011.1.8(土)・29(土) 14:00～ 美術館内	美術館スタッフ	子どもと保護者	5人	0人	無料（ただし保護者は要観覧チケット）	杉本博司作品を親子でみて回るツアー。《偏光色》のシリーズでは、制作方法を探るためエレベーター前にて太陽光をプリズムで分光し実際にみてみた。また、それぞれに好きな作品を探し理由を話したりして鑑賞した。
				32人	0人		
「食パンアート」	2011.2.19(土) 10:00～13:00	美術館スタッフ	小・中学生	21人	13人	無料	さまざまな食材を見た後、どのようなパンにするかデザインを考え、実際にパンの上に食材をのせて完成させる。色・形などのバランスを楽しみながら最後に食べる。
「お手紙カフェ」	2011.3.25(金)～27(日) 10:00～12:00 13:30～16:00 2階造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	182人（3日間合計）	92人（3日間合計）	200円（カフェレストMIMOCA限定クッキーと1ドリンクつき）	色紙やテープ、小物を使って手紙が書けるカードをつくり、完成後にはカフェレストMIMOCA限定のクッキーとドリンクを飲みながら大切な人へメッセージを書くワークショップ。

【杉本博司　アートの起源/科学】展関連「親子ツアー」
（2011．1）

Ⅲ 教育普及事業

ii オープン・スタジオ

オープン・スタジオ『美術館であそぼう』
《絵具で自由に絵を描く・土粘土で遊ぶ活動》
時　間／10時～11時30分
対　象／子ども・保護者
参加料／無料
会　場／造形スタジオ
申込不要

開　催　日	人　数			計
	子ども	保護者	見学者	
2009年４月４日	28	12	2	42
2009年５月２日	94	41	9	144
2009年６月６日	14	13	0	27
2009年７月４日	42	24	1	67
2009年９月５日	45	37	5	87
2009年９月12日	24	21	0	45
2009年９月19日	25	19	0	44
2009年10月３日	37	28	3	68
2009年11月７日	26	18	2	46
2010年２月６日	21	18	1	40
2010年３月６日	21	17	2	40
2009年度計	377	248	25	650
2010年９月４日	50	35	3	88
2010年９月11日	38	32	12	82
2010年11月５日	32	25	2	59
2010年12月４日	28	22	1	51
2011年２月５日	44	33	3	80
2011年３月12日	104	52	2	158
2010年度計	296	199	23	518

Ⅲ　教育普及事業

ⅲ　スクールプログラム

1　鑑賞教育について考える会

開館当初より多数の学校団体にご来館いただいているが、近年、学習指導要領でも鑑賞を行う際に地域の美術館の活用が謳われていることもあり、学校との結びつきが重要になっている。このような中、先生方から美術館来館前に学校の授業で使用できる図版はないかとの問い合わせがあった。そこで2008年度より月１回程度「鑑賞教育について考える会」をもち先生方と研究・協力して、学校現場で使いやすく、また子どもたちの効果的な鑑賞を促すことができるような鑑賞教材の開発に取り組んだ。その成果として、2009年５月、猪熊弦一郎の作品60点を印刷したアートカードを使い、楽しみながら美術作品を鑑賞する力を養うことができる「ミモカ・アートカード」が完成した。2010年には映像教材「guén 猪熊弦一郎」（ＤＶＤ・16分）が完成した。

	開　催　日	時　間	小学校教諭	中学校教諭	高校教諭	一般	参加人数(計)
第13回	2009．4．4（土）	14時～	4	1	0	0	5
第14回	2009．5．9（土）	14時～	3	0	0	0	3
第15回	2009．6．13（土）	10時～	4	0	0	1	5
第16回	2009．7．23（木）	14時～	3	1	0	0	4
第17回	2009.10.31（土）	10時～	4	1	1	1	7
第18回	2009.12．5（土）	10時～	3	1	0	0	4
第19回	2010．2．13（土）	10時～	4	0	0	0	4
第20回	2010．3．13（土）	14時～	2	1	0	1	4
第21回	2010．6．19（土）	10時～	4	0	0	1	5
第22回	2010．7．10（土）	10時～	4	1	0	0	5
第23回	2010．8．11（水）	10時～	5	0	0	0	5
第24回	2010．8．30（月）	13時～	4	0	0	1	5
第25回	2010.10.23（土）	10時～	5	1	0	1	7
第26回	2010.11.13（土）	10時～	3	1	0	1	5
第27回	2010.12．4（土）	13時30分～	4	1	0	1	6
第28回	2011．1．15（土）	10時～	3	2	0	1	6
第29回	2011．2．5（土）	14時～	2	1	0	3	6
第30回	2011．2．26（土）	10時～	2	2	0	2	6
第31回	2011．3．20（日）	13時～	3	1	0	0	4
計			66	15	1	14	96

2　学校団体での来館

保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・一般等の団体来館を対象とした、対話をしながらの作品鑑賞を行っている。来館生徒数、教職員のご希望、生徒の興味などにあわせ学校ごとにプランを組立てている。

2009年度

事　業　名	学　校　名	校数	生徒数（引率者含む）
色彩の詩人－脇田和 常設展 （会期：4 /11- 6 /28）	保育園	1	31
	幼稚園	1	49
	小学校	8	528
	中学校	2	16
	高校	3	114
	大学	1	17
	専門学校	1	25
	養護学校	1	86
	他団体（一般）	9	253
常設展（会期：6 /29- 7 / 5 ）		0	0
ダブル・ファンタジー：韓国現代美術展 常設展 （会期：7 /12-10/12）	保育園	1	24
	幼稚園	2	164
	小学校	10	492
	中学校	2	17
	高校	3	76
	大学	16	401
	他団体（一般）	3	75
常設展（会期：10/13-18）	幼稚園	1	23
	大学	1	20
	専門学校	1	49
	他団体（一般）	3	162
昭和　写真の1945-1989 常設展 （会期：10/25- 1 /11、年末休館12/25-31）	保育園	3	109
	幼稚園	2	105
	小学校	3	186
	高校	1	44
	大学	5	136
	他団体（一般）	13	303
猪熊弦一郎展　色いろいろ／ Focus 3　高嶺格：スーパーキャパシターズ 常設展 （会期：1 /24- 3 /31）	保育園	11	290
	幼稚園	4	236
	小学校	10	414
	高校	1	7
	大学	2	58
	養護学校	1	17
	他団体（一般）	8	119

2010年度

事　業　名	学　校　名	校数	生徒数 (引率者含む)
ミカタノミカター絵を楽しむ11のヒント 常設展 （会期：4 /10- 7 / 4 ）	保育園	4	
	幼稚園	3	
	小学校	6	
	中学校	2	
	高校	2	
	大学	3	
	専門学校	1	
	養護学校	2	延べ　1237
	他団体（一般）	18	472
常設展（会期：7 / 5 -11）	他団体（一般）	3	52
SickeTelーキュピキュピと石橋義正 常設展 （会期：7 /18-11/ 3 ）	保育園	4	
	幼稚園	2	
	小学校	9	
	中学校	6	
	高校	4	
	大学	16	
	専門学校	2	
	養護学校	1	延べ　1343
	他団体（一般）	13	321
常設展（会期：11/ 4 - 7 ）	幼稚園	1	
	小学校	1	延べ　121
杉本博司　アートの起源｜科学 常設展 （会期：11/21- 2 /20、年末休館12/25-31）	保育園	6	
	幼稚園	3	
	小学校	6	
	中学校	2	
	高校	2	
	大学	1	
	専門学校	2	
	養護学校	1	延べ　700
	他団体（一般）	16	331
杉本博司　アートの起源｜建築 常設展 3 / 6 - 3 /31（会期：3 / 6 - 5 /15）	保育園	1	
	幼稚園	0	
	小学校	2	
	中学校	0	
	高等専門学校	1	
	大学	0	
	専門学校	0	
	養護学校	0	延べ　164
	他団体（一般）	1	24

3　市内教職員対象解説会

教職員の方々を対象に、授業に役立てていただけるよう、主に担当学芸員が企画展毎に解説を行っている。

展　覧　会　名	開催日	時間	保育所	幼稚園	小学校	中学校	その他	合計
色彩の詩人－脇田和	2009. 4 .17(金)	16時30分～	0	0	3	1	0	4
ダブル・ファンタジー：韓国現代美術展	2009. 7 .15(水)	16時30分～	1	0	2	1	0	4
昭和　写真の1945-1989	2009.10.28(水)	16時30分～	0	0	1	0	0	1
猪熊弦一郎展　色いろいろ Focus 3　高嶺格：スーパーキャパシターズ	2010. 1 .27(水)	16時30分～	0	1	1	1	0	3
ミカタノミカター絵を楽しむ11のヒント	2010. 4 .16(金)	16時30分～	0	0	1	1	0	2
SickeTel－キュピキュピと石橋義正	2010. 7 .23(金)	16時30分～	0	0	5	1	1	7
杉本博司　アートの起源｜科学	2010.11.26(金)	16時30分～	0	0	1	1	0	2
杉本博司　アートの起源｜建築	2011. 3 .11(金)	16時30分～	0	0	0	1	0	1
		計	1	1	14	7	1	24

4　博物館実習

2006年度より、博物館学芸員資格取得のために科目単位を履修中の方を受け入れ、収集・保管・展示、調査研究、教育普及等に関する実習を行っている。

	実　施　日　程	実習者数(人)
2009年度	2009. 8 .24(月)～ 8 .29(土)	3
2010年度	2010. 8 .23(月)～ 8 .28(土)	4
計		7

5　職場体験

近隣の小学生・中学生・高校生を対象に、実際に現場を体験して勤労観や社会的なマナーを身につけ、将来の職業選択につなげてもらえるよう、職場体験実習の受け入れを行っている。

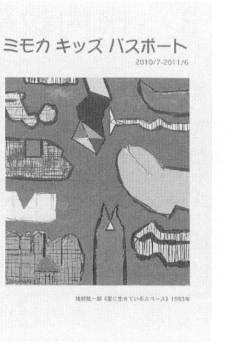
2009年度

実　習　期　間	学校名・依頼先など	参加者数(人)
平成21年 7 月23日(木)～24日(金)	香川県藤井高等学校	2
平成21年12月 1 日(火)～ 3 日(木)	坂出市立坂出中学校	2
計		4

2010年度

実　習　期　間	学校名・依頼先など	参加者数(人)
平成22年 7 月22日(木)～23日(金)	香川県藤井高等学校	4
平成23年 1 月27日(木)～28日(金)	丸亀市立西中学校	3
計		7

6　ミモカキッズパスポート



猪熊弦一郎は子どもたちとその作品を心から愛して止まなかった。美しいものや、楽しいものをたくさん見てもらうことで、感性豊かな人間に成長して欲しいと願っていた。そこで作品に触れる機会をより多く持ってもらうため、当館では平成８年５月より高校生以下は入館無料としている。さらに高校生以下は無料で観覧できることを広く周知し、また美術館及び猪熊弦一郎に接する機会を増してもらい、芸術に親しむ心を育むため、平成11年７月よりパスポートを発行、配布した。

期間　　毎年７月１日から１年間有効

対象　　市内保育所、幼稚園年長児
　　市内小中学生全員
　　高校生以下の来館者で希望した人

来館時にパスポートを提示すると裏面にスタンプが押印され、１年間に９回スタンプが押されると対話彫刻キット（オブジェを作成する材料キット）か、ポストカードを渡す。2010年７月からはプレゼントを変更し、来館時に押されるスタンプを５個集めるとオリジナル缶バッジ、また10個集めると対話彫刻キット入りオリジナルバッグを渡す。

ミモカ キッズ パスポート年間利用者数
2009年４月～2011年３月

2009年度

展　覧　会　名		幼･保	小学生	中学生	高校生	小 計
猪熊弦一郎展　○×○× MIMOCA'S EYE vol. 2　小金沢健人展	4 / 1	0	0	0	0	0
色彩の詩人－脇田和	4 /11～ 6 /28	3	10	1	0	14
常設展「猪熊弦一郎展」	6 /29～ 7 / 5	6	20	2	0	28
ダブル・ファンタジー：韓国現代美術展	7 /12～10/12	39	192	11	0	242
常設展「猪熊弦一郎展」	10/13～10/18	0	6	0	0	6
昭和　写真の1945-1989	10/25～10/ 1 /11	8	19	0	2	29
猪熊弦一郎展　色いろいろ Focus 3　高嶺格：スーパーキャパシターズ	1 /24～ 3 /31	42	28	4	0	74
	計	98	275	18	2	393

2010年度

展　覧　会　名		幼･保	小学生	中学生	高校生	小 計
ミカタノミカター絵を楽しむ11のヒント	4 /10～ 7 / 4	4	30	0	0	34
常設展「猪熊弦一郎展」	7 / 5 ～ 7 /11	0	0	0	0	0
SickeTel－キュピキュピと石橋義正	7 /18～11/ 3	19	355	30	0	404
常設展「猪熊弦一郎展」	11/ 4 ～11/ 7	0	0	0	0	0
杉本博司　アートの起源｜科学	11/21～11/ 2 /20	23	59	4	0	86
杉本博司　アートの起源｜建築	3 / 6 ～ 3 /31	12	42	1	0	55
	計	58	486	35	0	579

Ⅲ 教育普及事業

iv イベント

凱風快晴＆ユトレヒト　at MIMOCA ゲートプラザ　丸○や（まるまるや）

入場者数　1,447人

日　　時　2009年５月３日(日・祝)、４日(月・祝)　12時～17時
会　　場　１階ゲートプラザ
入 場 料　無料
企　　画　株式会社ブルーマーク
協　　力　凱風快晴、ユトレヒト
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

ミシュコ・プラヴィ “Music Around The World” Japan Tour 2009 丸亀公演

入場者数　109人

日　　時　2009年６月21日(日)　19時30分～
会　　場　２階ミュージアムホール
出 演 者　ミシュコ・プラヴィ（アコーディオン）
入 場 料　一般2,500円、高校生以下（限定30席）1,000円
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

丸亀市若手芸術家支援事業　GRAPH－リリラジ秋の即興ライブ

入場者数　130人

日　　時　2009年10月25日(日)　19時00分～
会　　場　１階ゲートプラザ
出 演 者　木村恵美、dovo（副島慶子）、村井知之、海掘賢太郎
入 場 料　1,000円
主　　催　丸亀市、丸亀市教育委員会、丸亀市文化振興事業協議会、
　　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

丸亀市若手芸術家支援事業「高松明日香」展　トリミング

入場者数　620人

日　　時　2009年11月14日(土)～11月23日(月・祝)
会　　場　２階造形スタジオ
入 場 料　無料
主　　催　丸亀市、丸亀市教育委員会、丸亀市文化振興事業協議会、
　　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

本の庭。

入場者数　726人

日　　時　2010年５月３日(月・祝)、４日(火・祝)　12時～16時
会　　場　１階ゲートプラザ
入 場 料　無料
企画協力　株式会社ブルーマーク
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、
　　丸亀市立中央図書館

チャンチキトルネエド　フリーライブ

入場者数　210人

日　　時　2010年８月12日(木)　16時00分～16時30分
会　　場　２階カスケードプラザ、１階ゲートプラザ他
出 演 者　チャンチキトルネエド
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

瀬戸内国際芸術祭2010連携事業　SWJO ジャズコンサート

入場者数　150人

日　　時　2010年９月18日(土)　15時～16時
会　　場　１階ゲートプラザ
出 演 者　SWJO
入 場 料　無料
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

瀬戸内国際芸術祭2010連携事業　ダンスプレビュー「はじめましてまたこんど」

入場者数　110人

日　　時　2010年10月16日(土)　14時～14時30分
会　　場　１階ゲートプラザ
出 演 者　港大尋（音楽）　青木尚哉（ダンス）　ほかダンサー10名
入 場 料　無料
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

平成22年度　新春年賀版画・絵手紙展

入場者数　2,971人

日　　時　2011年１月15日(土)～１月21日(金)
会　　場　２階造形スタジオ
入 場 料　無料
主　　催　丸亀市造形教育研究会
共　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY　vol. 9

入場者数　216人

日　　時　2009年５月５日(火・祝)　18時30分～21時30分
会　　場　３階カフェレスト MIMOCA、カスケードプラザ
出 演 者　ＬＩＶＥ：キセル　ＤＪ：角張渉（カクバリズム）
入 場 料　当日3,500円、前売り3,000円（共に１ドリンク付）
主　　催　株式会社ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、
　　財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY　vol. 10

入場者数　148人

日　　時　2009年９月５日(土)　18時30分～21時30分
会　　場　３階カフェレスト MIMOCA、カスケードプラザ
出 演 者　ＬＩＶＥ：チャンチキトルネエド　ＤＪ：Takashi FUJITA （TurnTable Jazz）
入 場 料　当日3,000円、前売り2,500円（共に１ドリンク付）
主　　催　株式会社ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、
　　財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY　vol. 11

入場者数　101人

日　　時　2009年12月19日(土)　18時30分～21時30分
会　　場　３階カフェレスト MIMOCA
出 演 者　ＬＩＶＥ：TICA、rafflesia　ＤＪ：Hiroyuki Toyoshima
入 場 料　当日3,500円、前売り3,000円（共に１ドリンク付）
主　　催　株式会社ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、
　　財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY　vol. 12

入場者数　151人

日　　時　2010年５月２日(日)　18時30分～21時30分
会　　場　３階カフェレスト MIMOCA
出 演 者　ＬＩＶＥ：ポート・オブ・ノーツ　ＤＪ：Toshi（Pepe California/Bluemark）
入 場 料　当日3,500円、前売り3,000円（共に１ドリンク付）
主　　催　株式会社ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、
　　財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY　vol. 13

入場者数　80人

日　　時　2010年12月４日(土)　18時30分～21時30分
会　　場　３階カフェレスト MIMOCA
出 演 者　ＬＩＶＥ：青柳拓治　ＤＪ：Mao YAMAZAKI（AKICHI RECORDS/gm projects）
入 場 料　当日3,500円、前売り3,000円（共に１ドリンク付）
主　　催　株式会社ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、
　　財団法人ミモカ美術振興財団

現代芸術入門講座　vol. 9 - 1

入場者数　88人

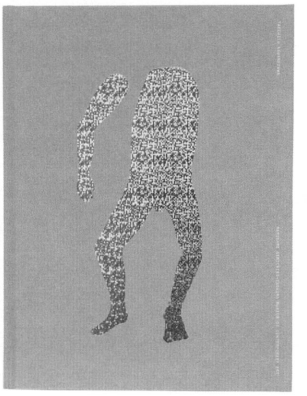
日　　時　2010年１月10日（日）　14時～16時
会　　場　２階ミュージアムホール
テ ー マ　地域と現代美術
講　　師　増田敬一（香川県瀬戸内国際芸術祭推進室）
　　金廣有希子（財団法人直島福武美術館財団）
　　中田耕市（財団法人ミモカ美術振興財団）
受 講 料　無料
主　　催　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

Ⅲ　教育普及事業

v　刊行物一覧

v－i　当館発行

2009年
（平成21年６月）



MIMOCA'S EYE vol. 2　小金沢健人展　動物的

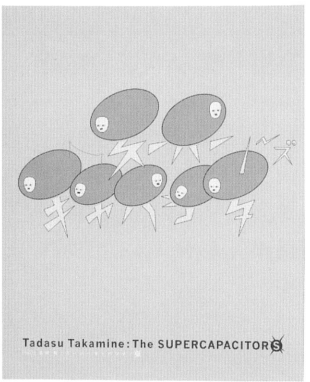
内　　容　ごあいさつ／小金沢健人「動物的」／作品図版／掲載作品リスト／白坂ゆり「動物と電気」／クリストフ・ドズヴァルト「焦点なき世界に見出された誤謬」／中田耕市「観察記」／略歴／主な参考文献
編　　集　菊池敦己（ブルーマーク）、小金沢健人、中田耕市
翻　　訳　ブライアン・アムスタッツ、松浦直美、中田耕市
仕　　様　Ａ４変型　112ページ
デザイン　菊池敦己
プリンティングディレクション　落合崇
印　　刷　グラフ株式会社
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　1,100部
価　　格　2,500円

2010年
（平成22年１月）

猪熊弦一郎展　色いろいろ

内　　容　松村円「猪熊弦一郎の作品と色の構成」／年譜／作品リスト
編　　集　松村円
仕　　様　Ａ４　６ページ
デザイン　川村哲司（atmosphere ltd.）
印　　刷　平和写真印刷株式会社
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　1,100部
価　　格　無料

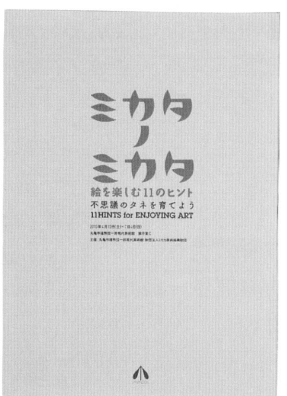
2010年
（平成22年１月）



Focus 3　高嶺格：スーパーキャパシターズ

内　　容　スーパーキャパシタとは／電力の歴史／ごあいさつ／新見永治「着いたー。丸亀だ。」／図版／岩川洋成「現代マジメ論」／対談　高嶺格×石田克英／古野華奈子「スーパーキャパシターズ展で、風穴は開いたのか」／出品作品リスト／略歴／謝辞
編　　集　高嶺格、古野華奈子
翻　　訳　スタン・アンダソン
仕　　様　Ａ４変型　116ページ
デザイン　江村耕市
印　　刷　平和写真印刷株式会社
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　1,100部
価　　格　2,300円

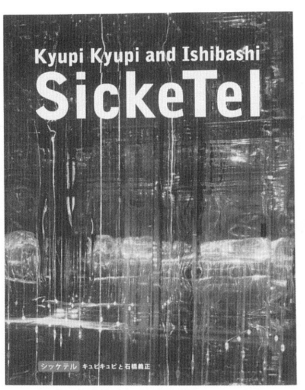
2010年
（平成22年３月）



ミカタのミカタ　絵を楽しむ11のヒント

内　　容　古野華奈子「ヒントのタネあかし」／作品リスト／河内田絵美「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館での鑑賞に関する教育普及活動について」／増田真理子「学校との連携と鑑賞教材開発への取り組み」
編　　集　河内田絵美、増田真理子、林理恵
仕　　様　Ａ４　６ページ
デザイン　大岡寛典
印　　刷　大岡寛典事務所
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　500部
価　　格　無料

2010年
（平成22年３月）



SickeTel　ーキュピキュピと石橋義正ー

内　　容　ごあいさつ／図版 SickeTel シッケテル—キュピキュピと石橋義正—／小吹隆文「キュピキュピと石橋義正さんについての個人的覚え書き」／小崎哲哉「イケてる大人の『SickeTel』、あるいは水を得た魚たち」／作品アーカイヴ　2010年→1997年／前田圭蔵「キュピキュピ～謎の女Ｂ」／中田耕市「生々しさを喚起する装置としての『SickeTel』」／略歴／出品作品リスト
編　　集　キュピキュピ、中田耕市
翻　　訳　ブライアン・アムスタッツ
仕　　様　Ａ４変型　96ページ
アート・ディレクション＆デザイン　江村耕市
印　　刷　和光印刷株式会社
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　750部
価　　格　2,000円

2011年
（平成23年１月）

杉本博司　アートの起源｜科学　ハンドアウト

内　　容　杉本博司「アートの起源」／杉本博司「冬　科学」「放電場」「偏光色」／古野華奈子「作品解説」／略歴
編　　集　古野華奈子
仕　　様　Ａ４　４ページ
デザイン　近藤一弥
印　　刷　株式会社オノウエ印刷
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　4,000部
価　　格　無料

2011年
（平成23年３月）

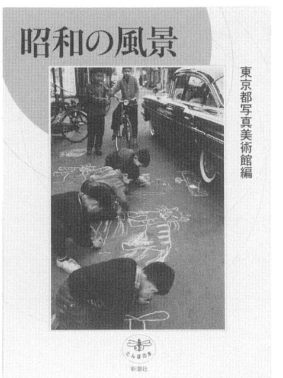
杉本博司　アートの起源｜建築　ハンドアウト

内　　容　杉本博司「アートの起源」／杉本博司「春　建築」「反重力構造」「建築」／中田耕市「作品解説」／略歴
編　　集　中田耕市
仕　　様　Ａ４　４ページ
デザイン　近藤一弥
印　　刷　株式会社オノウエ印刷
発　　行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数　4,000部
価　　格　無料

---

v ― ii　その他関連刊行物

2007年
（平成19年４月）



昭和の風景

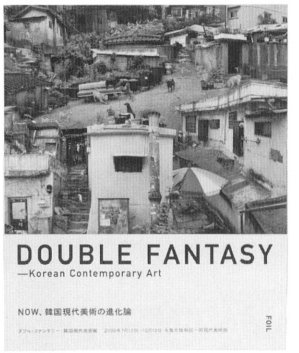
内　　容　金子隆一「戦後写真小史　『昭和』をとらえた写真家たち」／第１部　オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）　昭和20年代／第２部　ヒーロー・ヒロインの時代　昭和30・40年代パート１／第３部　高度成長期　昭和30・40年代パート２／第４部　オイルショックからバブルへ　昭和50年代以降／あとがき／関連写真集リスト
編　　集　東京都写真美術館
仕　　様　Ａ５　208ページ
印　　刷　凸版印刷株式会社
発　　行　株式会社新潮社
価　　格　2,000円

2009年
（平成21年４月）

色彩の詩人ー脇田和

内　　容　ごあいさつ／作品図版／松村円「絵画に導かれて描く」／年譜（濱田千里編）／文献目録（石山公子編）／作品リスト
編　　集　石山公子（呉市立美術館）、濱田千里（川越市立美術館）、福士理、松村円（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団）
編集協力　石嶋亜希子（脇田美術館）
仕　　様　Ａ４変型　128ページ
デザイン　池田進吾
印　　刷　光村印刷株式会社
発　　行　美術館連絡協議会
価　　格　1,800円

2009年
（平成21年７月）



ダブル・ファンタジー：韓国現代美術展

内　　容　ごあいさつ／北澤ひろみ「ダブル・ファンタジー」／キム・ホンヒ「1990年代末以降の韓国美術：オルタナティブ・スペースの出現、新世代アーティストの登場、そして韓国美術の地殻変動」／作家解説・略歴／出品作品リスト
編　　集　竹井正和、網野奈央、増田知香（フォイル）、北澤ひろみ（ナンジョウ　アンド　アソシエイツ）、古野華奈子（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団）
翻　　訳　スタン・アンダソン、イ・グォンホ、寺澤春子、パク・ジスン
仕　　様　Ｂ５変型　120ページ
アートディレクション　下田理恵（da.）
印　　刷　アベイズム株式会社
発　　行　有限会社フォイル
価　　格　2,100円

Ⅲ 教育普及事業

vi 美術図書室利用状況

2009年度（平成21年度）

月	入室者	累計	日数	平均
2009年 4月	158	158	25	6
5月	194	352	31	6
6月	208	560	30	7
7月	256	816	26	10
8月	448	1,264	31	14
9月	352	1,616	30	12
10月	148	1,764	25	6
11月	433	2,197	30	14
12月	128	2,325	24	5
2010年 1月	183	2,508	19	10
2月	181	2,689	28	6
3月	242	2,931	30	8

329日 2,931人（平均 9人）

2010年度（平成22年度）

月	入室者	累計	日数	平均
2010年 4月	96	96	21	5
5月	230	326	31	7
6月	169	495	30	6
7月	210	705	25	8
8月	449	1,154	31	14
9月	404	1,558	30	13
10月	338	1,896	31	11
11月	1,057	2,953	18	59
12月	153	3,106	24	6
2011年 1月	275	3,381	31	9
2月	181	3,562	20	9
3月	284	3,846	26	11

318日 3,846人（平均 12人）

Ⅲ　教育普及事業

vii　ミモカフレンド

美術館で開催する展覧会、講演会などの事業を通して、猪熊芸術及び内外の現代美術に親しむ事を目的として1995年４月に発足した。なお、名称については、生前猪熊が考案したものである。

会員期間

2009年４月１日～2010年３月31日

2010年４月１日～2011年３月31日

会員数

2009 - 2010年度会員　202名

2010 - 2011年度会員　223名

主な特典

展覧会の割引（３割引とする）

美術館情報のお届けなど

大阪市東洋陶磁美術館にて

●主な活動内容

第17回美術鑑賞旅行

2009年11月１日（日）

大阪市東洋陶磁美術館、国立国際美術館

参加者16名

第18回美術鑑賞旅行

2010年10月３日（日）

豊島（瀬戸内国際芸術祭）

参加者25名

ミモカフレンド鑑賞会

第15回美術鑑賞会

2010年３月22日（月・祝）14時～

「猪熊弦一郎展　色いろいろ」

ミモカフレンドのためのスペシャルギャラリートーク

参加者17名

Ⅳ 美術作品整理・管理

i 貸出し

作品名	制作年	材質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
					2009年度（平成21年度）
顔31	1989	アクリル・カンヴァス	東京都美術館、美術館連絡協議会	2009．4．16 ～ 7．19	「日本の美術館名品展」 会期:2009．4．25～ 2009．7．5 会場:東京都美術館
長江埠の子供達	1941	油彩・カンヴァス	豊田市美術館	2009．9．30 ～ 2010．1．7	「近代の東アジアイメージ－日本近代美術はどうアジアを描いてきたか」 会期:2009．10．10～ 2009．12．27 会場:豊田市美術館
五月二十七日写 長江埠　難民子供	1941	インク・紙			
五月二十八日写 應城南門ニテ	1941	インク・紙			
六月二十三日写　紫金山	1941	インク・紙			
					2010年度（平成22年度）
題名不明	1911頃	インク・紙	公益財団法人 東京オペラシティ文化財団	2010．4．1 ～ 2010．7．9	「猪熊弦一郎展いのくまさん」 会期:2010．4．10～ 2010．7．4 会場:東京オペラシティアートギャラリー
題名不明	1911頃	鉛筆・紙			
題名不明	1912頃	インク・紙			
題名不明	1912頃	インク・紙			
題名不明	1912頃	鉛筆、水彩・紙			
題名不明	1912頃	鉛筆、水彩・紙			
題名不明	1913頃	インク・紙			
題名不明	1913頃	インク・紙			
自画像	1921	油彩・カンヴァス			
自画像	1924	墨、パステル・紙			
自画像	1924	墨、パステル・紙			
自画像	1925	油彩・カンヴァス			
Ｓ君の像	1939	油彩・カンヴァス			
サクランボ	1939	油彩・カンヴァス			
猫達	1953	油彩・カンヴァス			
題名不明	1954	油彩・カンヴァス			
題名不明	1954	ミクストメディア			
題名不明	1954頃	油彩・カンヴァス			
道	1964	油彩・カンヴァス			
桃色の地図	1966	アクリル・カンヴァス			
The City（Green No. 1）	1968	アクリル・カンヴァス			

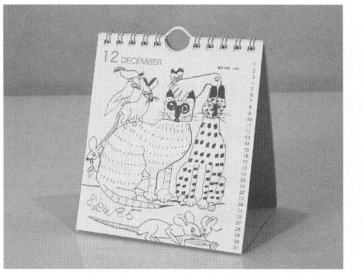
作　品　名	制作年	材　　質	貸　出　先	貸出期間	展覧会名等
					2010年度（平成22年度）
驚く可き風景（A）	1969	アクリル・カンヴァス	公益財団法人 東京オペラシティ 文化財団	2010．4．1 ～ 2010．7．9	「猪熊弦一郎展いのくまさん」 会期:2010．4．10～ 2010．7．4 会場:東京オペラシティアートギャラリー
自画像	1970	インク・紙			
風景	1972	アクリル・カンヴァス			
題名不明	1974	アクリル、鉛筆・紙			
ニューヨーク九十五丁目の矢じるし	1979	アクリル・カンヴァス			
自由の住む都市	1980	アクリル・カンヴァス			
宇宙は機械の運動場 No．1	1981	アクリル・カンヴァス			
スペース都市 C	1982	アクリル・カンヴァス			
面白い仲間	1982	アクリル・紙			
構造と遊び	1982	アクリル・紙			
星座からの返信	1983	アクリル・カンヴァス			
子供と発見	1984	アクリル・カンヴァス			
緑の太陽と煙	1984	アクリル・紙			
題名不明	1985	インク・紙			
題名不明	1985	インク・紙			
題名不明	1985	インク・紙			
題名不明	1985	インク・紙			
題名不明	1985	インク・紙			
題名不明	1985	インク・紙			
題名不明	1985	インク・紙			
題名不明	1985	インク・紙			
題名不明	1985頃	インク・紙			
明るい集落	1986	アクリル・カンヴァス			
バードライフ	1986	アクリル、鉛筆、コラージュ・紙			
題名不明	1986	インク・紙			
題名不明	1986	鉛筆・紙			
金環食	1987	アクリル・カンヴァス			
題名不明	1987	インク・紙			
題名不明	1988	アクリル・紙			
題名不明	1988	パステル・紙			
顔25	1988	インク・紙			
顔15	1989	アクリル・カンヴァス			
顔35	1989	アクリル・カンヴァス			
顔80	1989	アクリル・カンヴァス			
Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス			
帰る 太陽のもとへ	1989	アクリル・紙			
顔 9	1989	アクリル、鉛筆・紙			
題名不明	1989	パステル・紙			
題名不明	1989	パステル・紙			
題名不明	1989	インク・紙			
題名不明	1989	インク・紙			
題名不明	1989	インク・紙			

作　品　名	制作年	材　　質	貸　出　先	貸出期間	展覧会名等
					2010年度（平成22年度）
題名不明	1989	鉛筆・紙	公益財団法人 東京オペラシティ 文化財団	2010．4．1 ～ 2010．7．9	「猪熊弦一郎展いのくまさん」 会期:2010．4．10～ 2010．7．4 会場:東京オペラシティアートギャラリー
題名不明	1990	アクリル・紙			
合唱	1990	インク、鉛筆・紙			
題名不明	1990	インク、鉛筆・紙			
鳥達の隣人	1990	鉛筆・紙			
宇宙都市休日	1991	アクリル・カンヴァス			
顔２猫２鳥８	1991	アクリル・カンヴァス			
草	1991	アクリル・紙			
Love Birds	1991	アクリル・紙			
題名不明	1991	ｱｸﾘﾙ、ｲﾝｸ、ｺﾗｰｼﾞｭ・紙			
題名不明	1991	鉛筆・紙			
題名不明	1991頃	パステル・紙			
顔　ブルーの中	1992	ｱｸﾘﾙ・発砲ｽﾁﾛｰﾙ			
顔青	1992	アクリル・カンヴァス			
顔バック緑	1992	アクリル・カンヴァス			
顔11（K）	1992	アクリル・カンヴァス			
題名不明	1992	アクリル・カンヴァス			
題名不明	1992	アクリル・紙			
題名不明	1992	アクリル・紙			
題名不明	1992	アクリル・紙			
題名不明	1992	アクリル、インク・紙			
題名不明	1992	鉛筆・紙			
題名不明	1992	鉛筆・紙			
題名不明	1992	鉛筆、コンテ・紙			
題名不明	1992頃	パステル・紙			
題名不明	1993	アクリル、鉛筆・紙			
鶏と鳥達	1993	鉛筆・紙			
題名不明	1993	鉛筆・紙			
自画像	制作年不明	インク・紙			
自画像	制作年不明	インク・紙			
題名不明	制作年不明	インク・紙			
題名不明	制作年不明	インク・紙			
題名不明	制作年不明	インク・紙			
題名不明	制作年不明	鉛筆・紙			
対話彫刻　30点		ミクストメディア			
猪熊弦一郎のコレクションより115点	1990	鉛筆・紙			

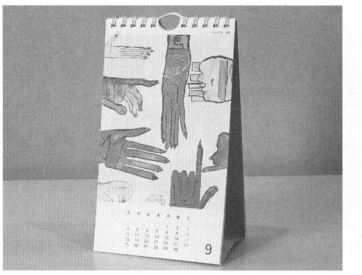
V その他事業

i ミュージアムショップ

ミュージアムショップは１階エントランスホールに設けられている。商品は全てオリジナルであり、当初猪熊弦一郎自らグッズ製作に携わった。猪熊の「街では売ってないもの、美術館だからあるもの」を提供するという姿勢を受け継ぎ、作品をもとにした商品を新しく開発している。

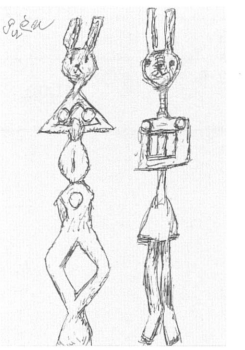


2010年卓上カレンダー



2011年卓上カレンダー

2010年度ポストカード


2011年度ポストカード

■卓上カレンダー

毎年テーマを決めて、猪熊弦一郎作品を各月の図版に選び好評を得ている。2010年度版では「猫」を、2011年度版では「手」をモチーフにした作品12点を紹介した。

2010年卓上カレンダー

価格　1,000円（税込）

サイズ　143×120㎜　上部リング止め、ハンガー付

2011年卓上カレンダー

価格　1,000円（税込）

サイズ　208×120㎜　上部リング止め、ハンガー付

■ポストカード

2010年度、2011年度は２枚のポストカードを新たに製作した。

2010年度ポストカード

≪題名不明≫　年代不明

価格　105円（税込）

2011年度ポストカード

≪題名不明≫　1912頃

価格　105円（税込）

V その他事業

ii カフェ

カフェレスト・ミモカは、2006年３月まで財団法人ミモカ美術振興財団の直営であったが、2006年４月より株式会社ブルーマークに営業委託することとなった。1998年から始まった展覧会毎の特別メニューは引き続き提供され、来館者の好評を博している。

撮影：藤田一浩

2009年度

「色彩の詩人－脇田和」

■トリドリ
カラメルバナナのムースと
ラムレーズンのアイスにラングドシャ

「ダブル・ファンタジー：韓国現代美術展」

■トリプル・ファンタジー
よもぎのマフィン、豆乳アイス、さつまあん

「昭和　写真の1945-1989」

■フォトグラフ
タルトタタン、フロマージュブラン、
チョコレートタルト、モカアイス

「猪熊弦一郎展　色いろいろ」

■色いろパフェ
チョコレートケーキ、カシスアイスクリーム、
動物クッキー

「Focus３　高嶺格：スーパーキャパシターズ」

■キャパシタＲＣ
抹茶のロールケーキ　あずき入り

■ゆきことまりこ
チョコチップスコーン

2010年度

「ミカタノミカター絵を楽しむ11のヒント」

■タネと実と花
松の実のタルト、
オレンジのソースのチーズケーキ

「SickeTel－キュピキュピと石橋義正」

■つややか
アニス風味のアイスと
タピオカとココナッツミルクのソース

■きらめき
ブルーのゼリーとグレープフルーツのゼリー

■ブラックカレー
イカスミのカレー

「杉本博司　アートの起源」

■五輪糖とほうじ茶オレ

VI 入館者状況

2009年度（平成21年度）

展覧会事業

会　　期	展　覧　会　名	日数(日)	入場者数(人)	平均(人/日)
2009年4月1日～2009年4月5日	猪熊弦一郎展　○×○×	5	724	145
2009年4月1日～2009年4月5日	MIMOCA'S EYE vol. 2　小金沢健人展　動物的	5	724	145
2009年4月11日～2009年6月28日	色彩の詩人－脇田和	79	8,150	103
2009年7月12日～2009年10月12日	ダブル・ファンタジー：韓国現代美術展	93	11,891	128
2009年10月25日～2010年1月11日	昭和　写真の1945-1989	72	10,307	143
2010年1月24日～2010年3月31日	猪熊弦一郎展　色いろいろ	67	6,265	94
2010年1月24日～2010年3月31日	Focus 3　高嶺格：スーパーキャパシターズ	67	6,265	94
企画展計		378	44,326	117
2009年4月1日～2007年4月5日	常設展　顔	5	811	162
2009年4月11日～2009年7月5日	常設展Ⅰ　鳥	87	8,846	102
2009年7月12日～2009年10月18日	常設展Ⅱ　新たな展開と街	99	12,879	130
2009年10月25日～2010年1月11日	常設展Ⅲ　回顧展	72	10,730	149
2010年1月24日～2010年3月31日	常設展Ⅳ　モノクローム	67	6,400	96
常設展計		330	39,666	120
計			83,992	

教育普及事業

	プログラム数(回)	日数(日)	利用者数(人)	平均(人/日)
ワークショップ	12	31	886	29
オープン・スタジオ	11	11	650	59
鑑賞教育について考える会	8	8	36	5
学校団体来館	134		4,646	
市内教職員対象解説会	4	4	12	3
博物館実習	1	6	3	
職場体験	2	5	4	
ミモカキッズパスポート			393	
イベント	71	18	2,559	143
美術図書室		329	2,931	9
ミモカフレンド向けイベント	2	2	33	17
展覧会関連プログラム	18	73	1,611	22
計	199	487	13,764	

※展覧会関連プログラムには、キュレーターズ・トーク、講演会等が含まれる。

2010年度（平成22年度）

展覧会事業

会　　期	展　覧　会　名	日数(日)	入場者数(人)	平均(人/日)
2010年4月10日～2010年7月4日	ミカタノミカター絵を楽しむ11のヒント	86	7,686	89
2010年7月18日～2010年11月3日	SickeTelーキュピキュピと石橋義正	109	19,391	178
2010年11月21日～2011年2月20日	杉本博司　アートの起源｜科学	65	17,653	276
2010年3月6日～2010年3月31日	杉本博司　アートの起源｜建築	26	3,273	126
企画展計		286	48,003	106
2010年4月10日～2010年7月11日	常設展Ⅰ　顔とハワイ時代	93	8,542	92
2010年7月18日～2010年11月7日	常設展Ⅱ　回顧展、Water Blue	113	20,717	183
2010年11月21日～2011年2月20日	常設展Ⅲ　ニューヨーク時代　1955-63年の作品から	85	17,910	211
2011年3月6日～2011年3月31日	常設展Ⅳ　身体の表現	26	3,454	133
常設展計		317	50,623	111
計			98,626	

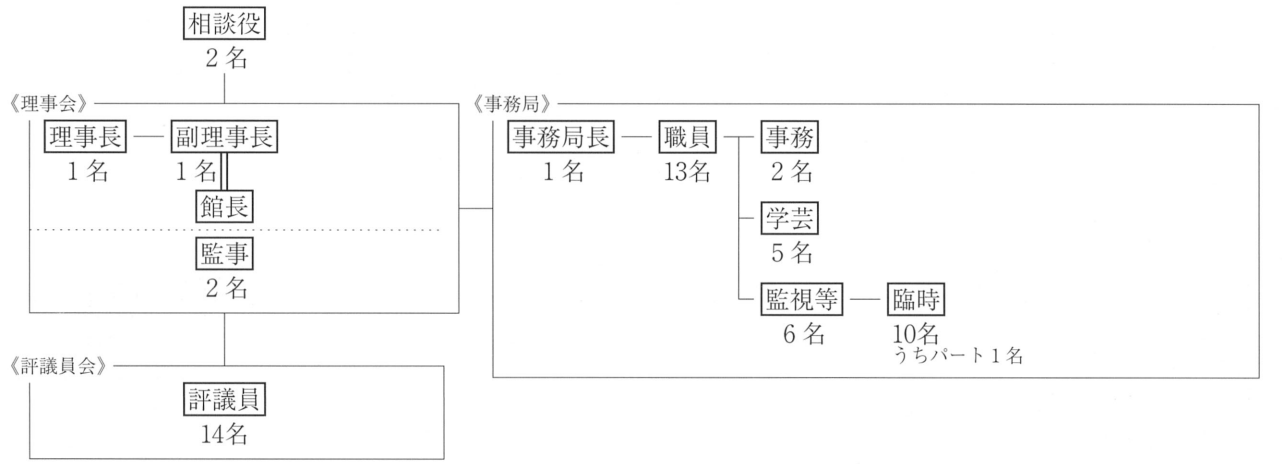
教育普及事業

	プログラム数(回)	日数(日)	利用者数(人)	平均(人/日)
ワークショップ	15	38	2,495	78
オープン・スタジオ	6	6	518	86
鑑賞教育について考える会	11	11	60	5
学校団体来館	147		4,765	
市内教職員対象解説会	4	4	21	5
博物館実習	1	6	4	
職場体験	2	4	7	
ミモカキッズパスポート			579	
イベント	8	16	4,698	294
美術図書室		318	3,846	12
ミモカフレンド向けイベント	1	1	25	25
展覧会関連プログラム	24	193	7,423	38
計	219	597	24,441	

※展覧会関連プログラムには、キュレーターズ・トーク、講演会等が含まれる。

Ⅶ 組織図

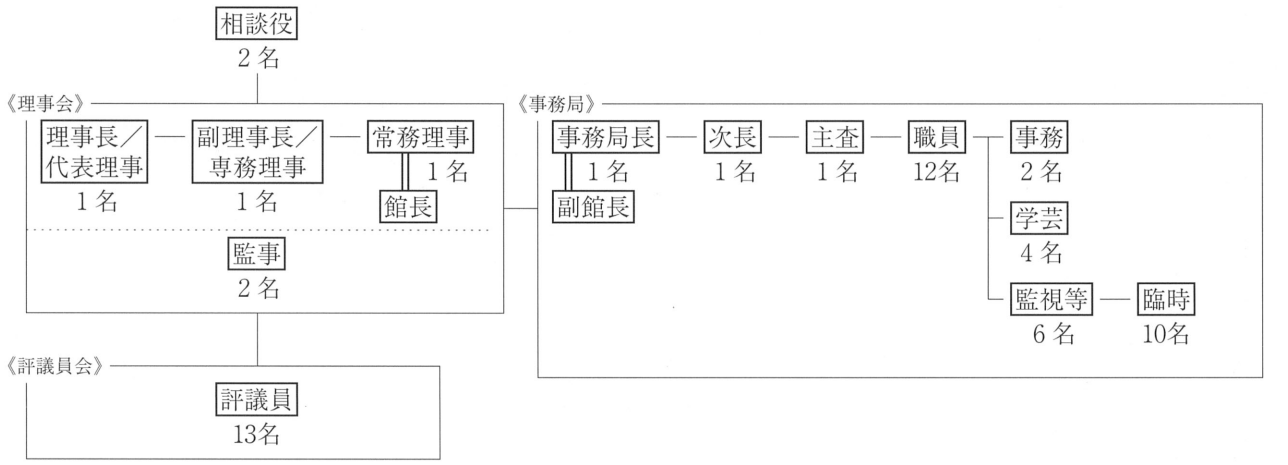
2009年度（平成21年度）



相談役	高階　秀爾	学識経験者		荒井　茂雄	新制作協会会員
理　事	橋本　　昇	丸亀市文化協会会長		日野　明世	学識経験者
	島川　修治	丸亀商工会議所役員		東山　正章	学識経験者（館長 兼 副理事長）
	小佐古公士	学識経験者		赤澤　　淳	学識経験者（理事長）
	山地　洋子	学識経験者		山本　一清	丸亀市教育委員会教育部長
監　事	後藤　　修	学識経験者		小野　敏夫	学識経験者
評議員	香川　　宏	学識経験者		川松美智子	学識経験者
	佐藤知恵子	丸亀市婦人団体連絡協議会会長		山崎　洋子	学識経験者
	羽場　一喜	学識経験者		川崎　展子	学識経験者
	岩澤　一朗	丸亀市小学校研究会図工・美術造形部会代表		亀井　敬子	学識経験者
	長尾　彩子	丸亀市幼稚園長会会長		塩田　　等	学識経験者
	前田　周治	丸亀市観光協会		藤田　秀光	丸亀市教育委員会文化課長
	杉尾　英美	丸亀ＴＭＯ推進協議会委員長		池田　清史	学識経験者

〔2010年３月31日現在〕

2010年度（平成22年度）



相談役	高階　秀爾	学識経験者	荒井　茂雄	新制作協会会員
理　事	橋本　　昇	丸亀市文化協会会長	日野　明世	学識経験者
	島川　修治	丸亀商工会議所役員	真鍋　順穂	学識経験者（館長 兼 常務理事）
	小佐古公士	学識経験者	赤澤　　淳	学識経験者（理事長／代表理事）
	山地　洋子	学識経験者	山本　一清	丸亀市教育委員会教育部長（副理事長／専務理事）
監　事	後藤　　修	学識経験者	立岡　光顕	学識経験者
評議員	香川　　宏	学識経験者	川松美智子	学識経験者
	佐藤知恵子	丸亀市婦人団体連絡協議会会長	山崎　洋子	学識経験者
	羽場　一喜	学識経験者	川崎　展子	学識経験者
	岩澤　一朗	丸亀市小学校研究会図工・美術造形部会代表	亀井　敬子	学識経験者
	長尾　彩子	丸亀市幼稚園長会会長	塩田　　等	学識経験者
	池田　清史	学識経験者	宮浦　敬子	丸亀市教育委員会文化課長

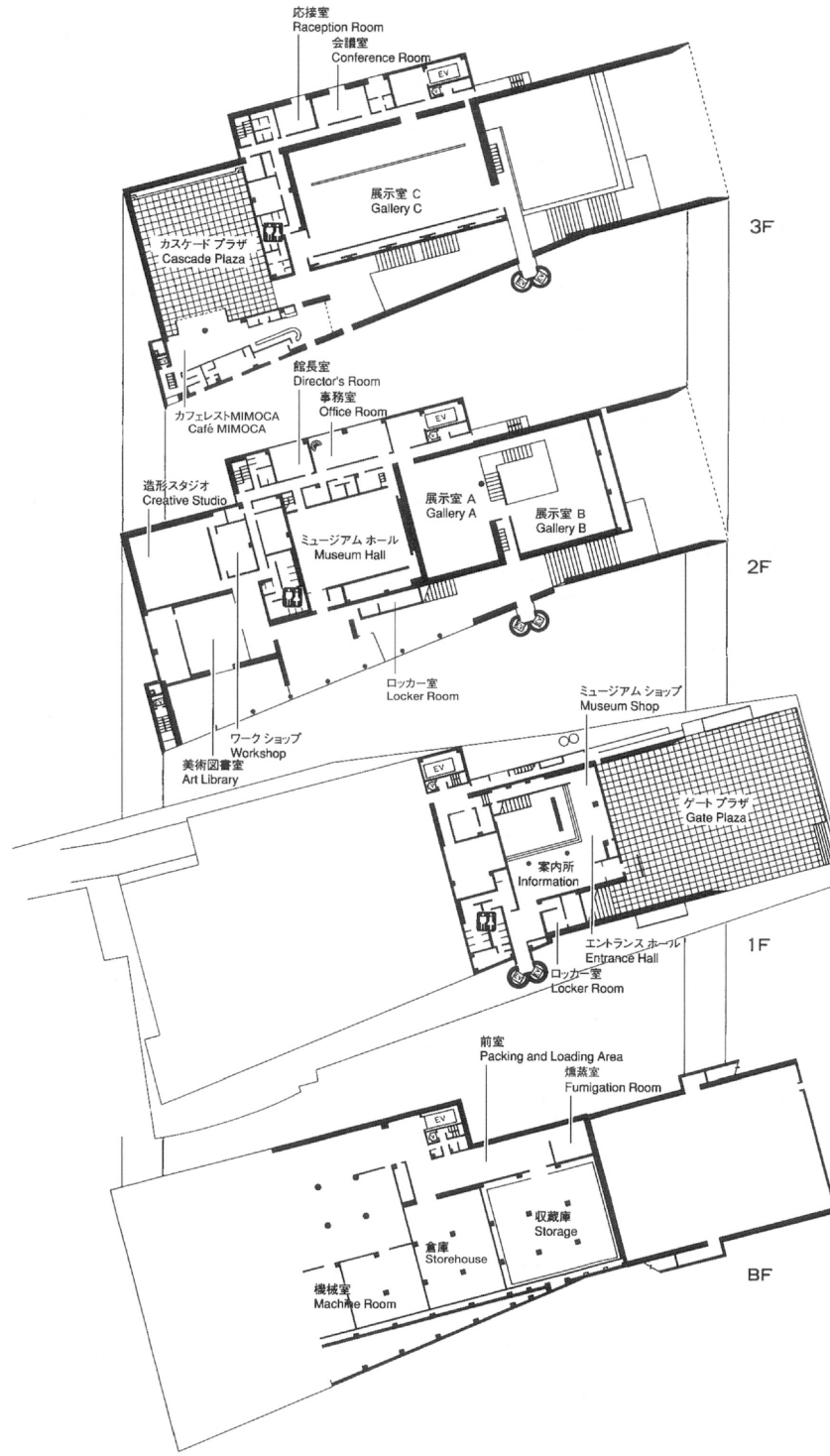
※平成23年２月１日の公益財団法人への移行に伴い、理事長は代表理事に、副理事長は専務理事に名称を変更した。

〔2011年３月31日現在〕

VIII 施設概要

所 在 地　丸亀市浜町80番地１
敷地面積　5,974.53㎡
規模構造　鉄骨鉄筋コンクリート構造
　　地下１階，地上３階
最高高さ　20m
建築面積　3,564.80㎡
延床面積　11,948.14㎡
仕上外壁　アルミ押出型材－Y（スパンドレル）
　　石（バーリントンスレート）
　　コンクリート打放し
仕上内装　床：大理石，花崗岩，フローリングタイル，ライムストーン，カーペットタイル，ゴムタイル，塩ビシート
　　壁：クロステックス（展示室）ナプコホワイト，ビニールクロス，布クロス
　　天井：岩綿吸音ボード AEP，ボード塗装，アルミパネル
設　　計　谷口建築設計研究所
監　　理　丸亀市建築課
　　谷口建築設計研究所
施　　工　建築工事　㈱鹿島建設
　　電気設備工事　㈱栗原工業
　　機械設備工事　㈱川崎設備工業
工　　期　平成元年11月21日着工
　　平成３年６月20日竣工

３階●展示室C　642.74㎡
Gallery C
カスケードプラザ　532.40㎡
Cascade Plaza
カフェレスト MIMOCA　236.67㎡
Café MIMOCA
会議室
Conference Room
２階●展示室 A　285.66㎡
Gallery A
展示室 B　286.96㎡
Gallery B
ミュージアムホール　297.05㎡
Museum Hall
170席（舞台照明・音響・映像設備完備）
造形スタジオ　202.15㎡
Creative Studio
ワークショップ　60.00㎡
Room for Workshop
美術図書室　195.20㎡
Art Library
ロッカー室
Locker Room
１階●案内所
Information
ミュージアムショップ
Museum Shop
ロッカー室
Locker Room
ＢＦ●収蔵庫　373.64㎡
Storage



Ⅸ 利用案内

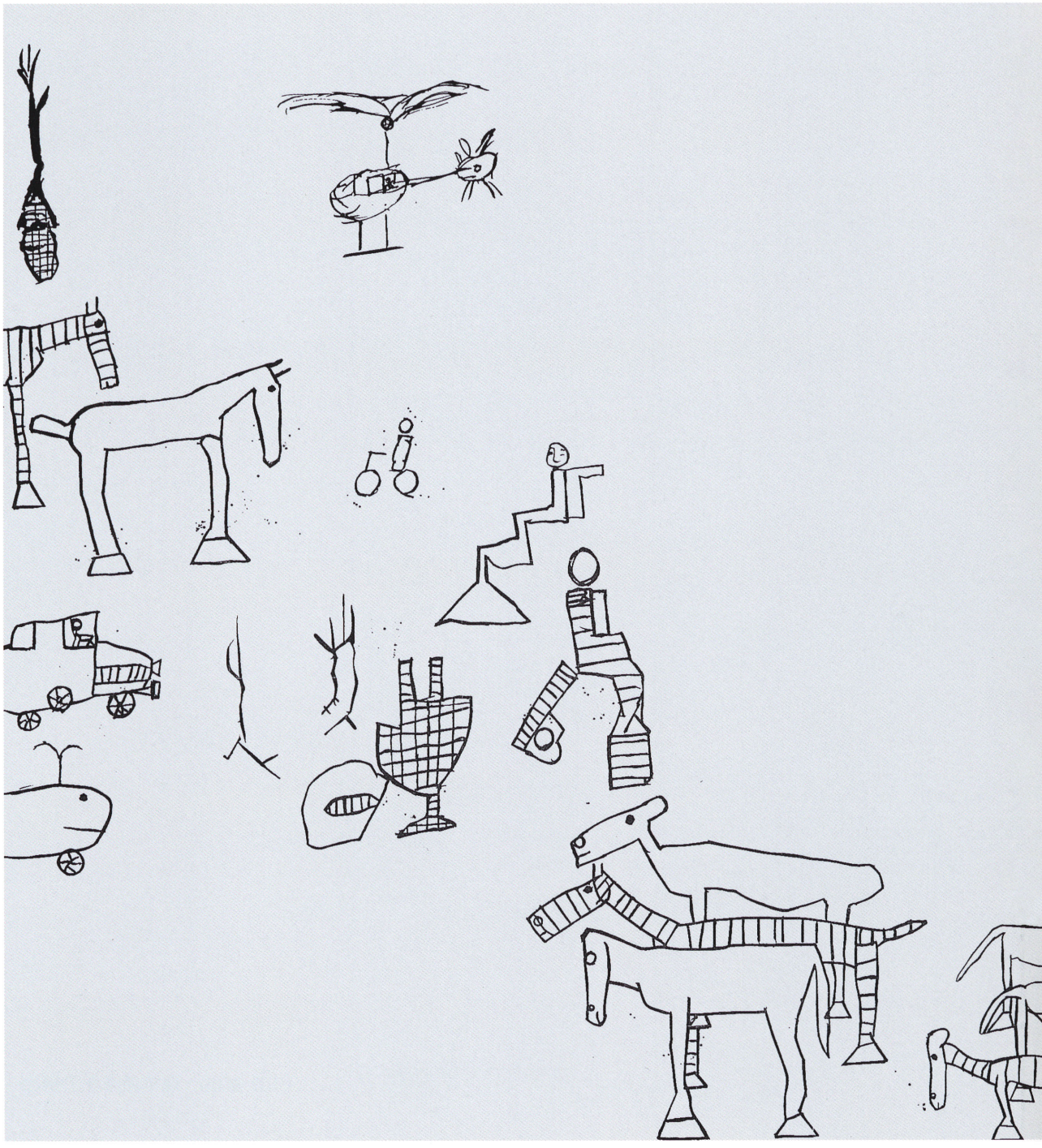
開館時間　午前10時～午後６時（入館は５時30分まで）
休 館 日　年末12月25日～31日、他に展示替えのための臨時休館（会期中無休）
観 覧 料　常設展　一　般　　300円（団体240円）
　　大学生　　200円（団体160円）
　特別展　その都度料金設定
　　無料　高校生以下または18歳未満、丸亀市内に在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方
　　割引　20名以上の団体　２割引

交通案内　□新幹線を利用する場合
　東京～岡山　約３時間
　①特急を利用の場合
　　岡山～丸亀　　特急　約40分
　②マリンライナー（坂出乗換）を利用の場合
　　岡山～坂出　　マリンライナー　約40分
　　坂出～丸亀　　普通　約10分
　　ＪＲ丸亀駅から徒歩約１分
□飛行機を利用する場合
　東京～高松空港　　約１時間
　①空港からタクシーを利用の場合　　約40分
　②空港からバス、高松からＪＲ利用の場合　　バス　約40分
　　電車（快速）約30分
□高速道路を利用する場合
　岡山～瀬戸中央自動車道　　坂出北ＩＣから約10分
　松山から　松山・高松自動車道　善通寺ＩＣから約15分
　高知から　高知・高松自動車道　善通寺ＩＣから約15分
　徳島から　高松自動車道　坂出ＩＣから約15分

駐車場◆ＪＲ丸亀駅前地下駐車場を利用（１時間無料）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館年報　2009-2010

平成24年３月　　印刷
平成24年３月　　発行
編集・発行　丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団
香川県丸亀市浜町80-1　TEL(0877)24-7755
印　　刷　平和写真印刷株式会社
香川県丸亀市土器町北1-18　TEL(0877)23-1300



Marugame Genichiro-Inokuma Museum Of Contemporary Art
Biennial Report 2009-2010